



わたしたちの村  
ふくえ

福栄村教育委員会







## 天保閔兵之地碑



(羽賀台)

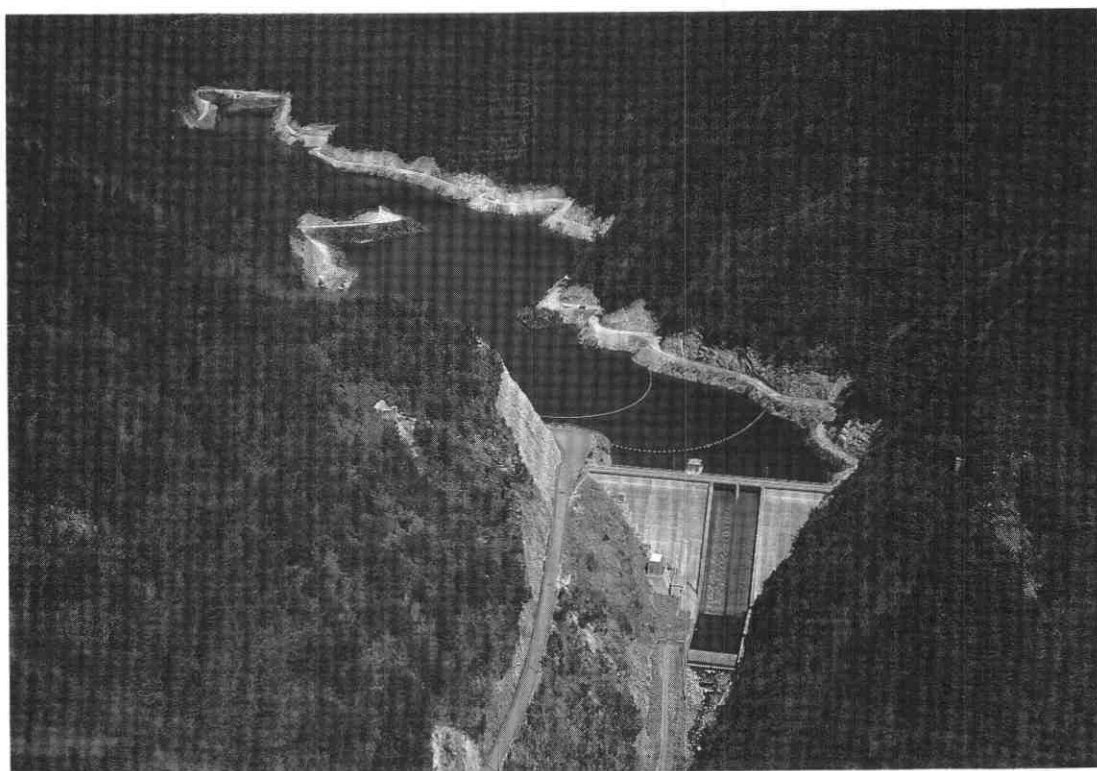
天保年中の羽賀台の閔兵により名高い。  
大正6年「天保閔兵之地碑」が建立された。



わたしたちの村

ふくえ

福栄村教育委員会編



山ノ口ダム





## はじめのことば

福栄村長 岡

忠雄

人々は、ながい歴史れきしの歩みの中で、そのところどころで、また、その時代時代で努力を重ねながら今日の郷土きょうどをつくり、私達に残のこしてくれました。今に生きる私達は、今の努力を惜おしんではなりません。

福栄村は、ほんとうに典型的てんけいてきな農村です。

水田の生産力も高く、村づくりも進んだ地方といわれています。黄金色こがねいろに波打つ稲田いなだも、美しい緑の森林も、みな私達の先輩せんぱいのたゆまない努力の賜物たまものであります。

今この村では、大がかりな土地改良事業や、道路改良事業が進められています。多くの人々が智恵を出し、汗を出しあって、心を合せていっしょうけんめい努力しています。

自分の生れたところに誇りほこを感じ、自分の選んだ仕事えらに自信を持ち、心の安らげる家庭や、温かい思いやりのある社会をつくることは、みんなの願いです。

みなさんも、この本をつかってしっかり郷土のことを勉強し、りっぱな後継あとつぎに育って下さい。

わたしたちの村「ふくえ」を利用するみなさんへ

福栄村教育委員会教育長 西村 馨

みなさんの住んでいる、わたしたちの村「福栄村」は、遠い昔から、多くの人びとにより、大へんくろうして、力を合わせて守り育ててきた村です。

みなさんは、福栄村のことについて、友だちや家の人と話し合い考えてみることは、福栄村をよくすることになると思います。

この本は、みなさんが、わたしたちの村のことについて勉強べんきょうするためにつくりました。あたた温かい心のふれあいと、豊かな福栄村をつくるために、郷土のことをよく知り、もっと発展はつてんさせるために役立ててください。

このりっぱな本をつくるために、学校のいそがしいなかで、いろいろ研究けんきゅうしてくださった先生方や、ごきょうりよくくださった村民のみなさんに心から敬意けいをささげます。



もくじ

	はじめに .....	1
	一 わたしたちの村 .....	2
	校区のようす .....	2
	村全体のようす .....	3
	一 学校のまわり .....	4
	(1) 福川小学校のまわり .....	4
	(2) 紫福小学校のまわり .....	11
	二 校区の絵地図を見て .....	17
	三 絵地図 .....	17
	(1) 校区めぐり .....	17
	(2) 絵地図をつくる .....	18
	(3) 絵地図をよんで .....	20
	(4) 村調べ .....	20
	二 村の人たちの仕事 .....	22
	一 村の仕事調べ .....	22
	二 農家の仕事 .....	26
	(1) 米作り .....	27
	(2) たばこ作り .....	30
	(3) やさい作り .....	31
	(4) その他 .....	32
	三 農業協同組合（農協）の仕事 .....	34



4 山の仕事…………… 35

5 森林組合の仕事…………… 35

6 店の仕事…………… 35

7 その他…………… 37

### 三

村の人たちのくらしをよくするくふう…………… 38

1 くらしをよくするくふう…………… 38

(1) 村をきれいに…………… 38

(2) 村内放送…………… 43

2 さいがいをふせぐ…………… 47

(1) 火事をふせぐ…………… 47

(2) 大水をふせぐ…………… 51

### 四

村の人たちの願い…………… 53

福栄村のうつりかわり…………… 57

1 学校のうちりかわり…………… 58

2 むかしのようすをつたえるもの…………… 65

3 バスを通るように…………… 67

4 農家に車やきかいはいるようになって…………… 69

5 村の合ぺい…………… 71

6 村をよくするために…………… 71

7 くらしのうちりかわり…………… 71

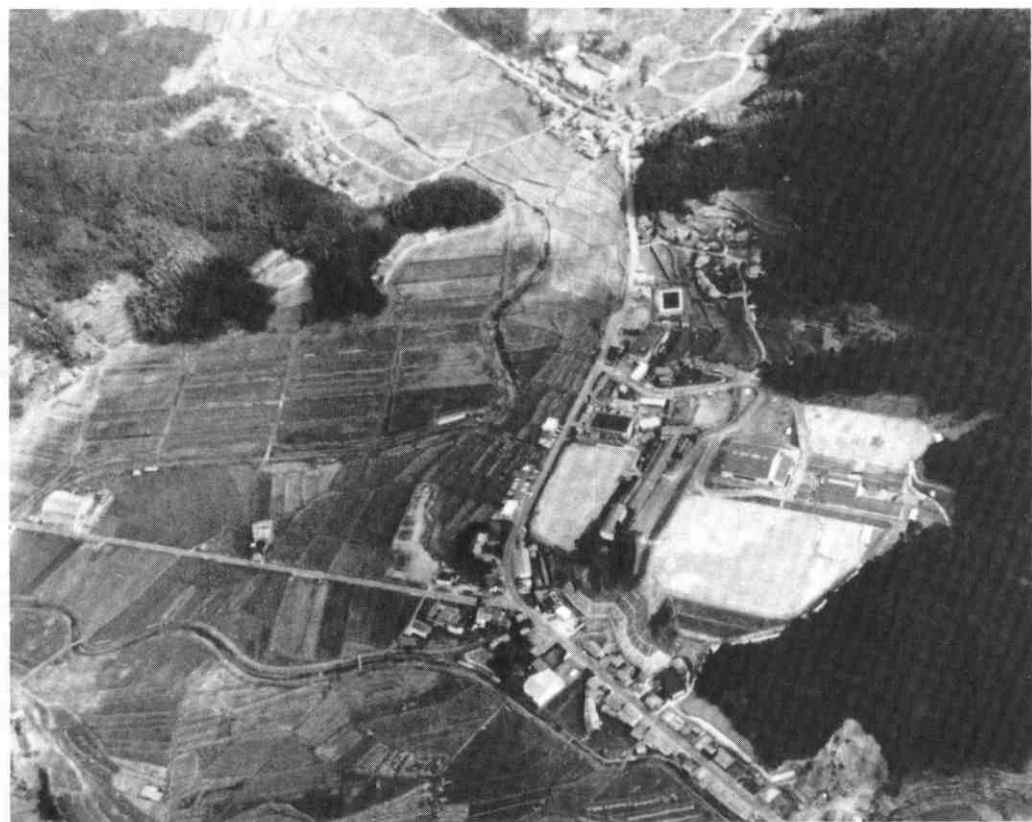
8 農業のうちりかわり…………… 78

### 六

郷土の開発…………… 82

### 七

あどがき…………… 82



福川地区航空写真

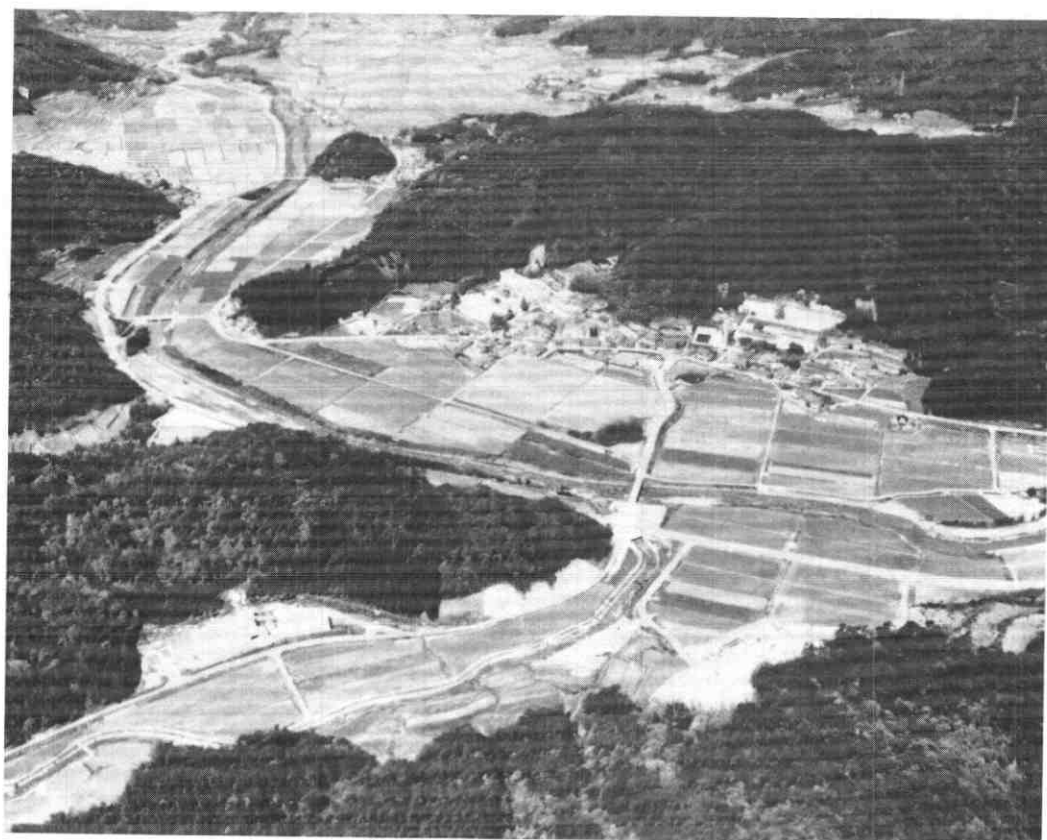
## はじめに

みなさんは、よその人に、学校のまわりや村のようすを聞かれたとき、わかりやすく、せつめいすることができますか。

村のようすについて、よくせつめいしようとする、遠くのことにはもちろん、近くのことでも、あらためて見なおしたり、自分の足を使<sup>つか</sup>って調べたりしなければなりません。

村のだいたい<sup>たい</sup>のようすや、また、くわしいようすを知るには、どうして調べたらよいでしょうか。

これから、みなさんの住<sup>す</sup>んでいるところについて、勉強<sup>べん</sup>していきましょう。



紫福地区航空写真

## 一、わたしたちの村

勉強のめあて

わたしたちの住んでいる福栄村は、どんな村でしょうか。村のようすを知るために、つぎのようなじゅんじよで、調べてみましょう。

### 校区のようす

- (イ) 高いところから、見えるところのようすを、かんさつする。
- (ロ) 見えないところのようすを、きよ年の三年生がつくった絵地図で調べるとめる。
- (ハ) じっさいに、歩いてかんさつする。
- (ニ) かんさつしたことを、絵地図にまとめる。

## 村全体のようす

- (イ) 村全体の地図から、村のようすを知る。  
 (ロ) 社会見学や遠足などを利用して、かんさつする。  
 このようにして、みなさんの村のようすを、調べることができます。

### 福栄村の位置

距離

面積

東	東経一三一度三四分	}	一〇・一キロメートル	}	九六・九平方キロメートル
西	東経一三一度二七分				
南	北緯三四度二〇分	}	一七・三キロメートル	}	
北	北緯三四度三〇分				

### 学校の位置

福川小学校 東経一三一度三〇分 北緯三四度二五分 標高一六五メートル

紫福小学校 東経一三二度三二分 北緯三四度二七分 標高一四八メートル

大きい川 阿武川・大井川

小さい川 (福川地区) 福井川・桜川・庄屋川・麦谷川 (紫福地区) 殿川川

深谷川・山ノ口川

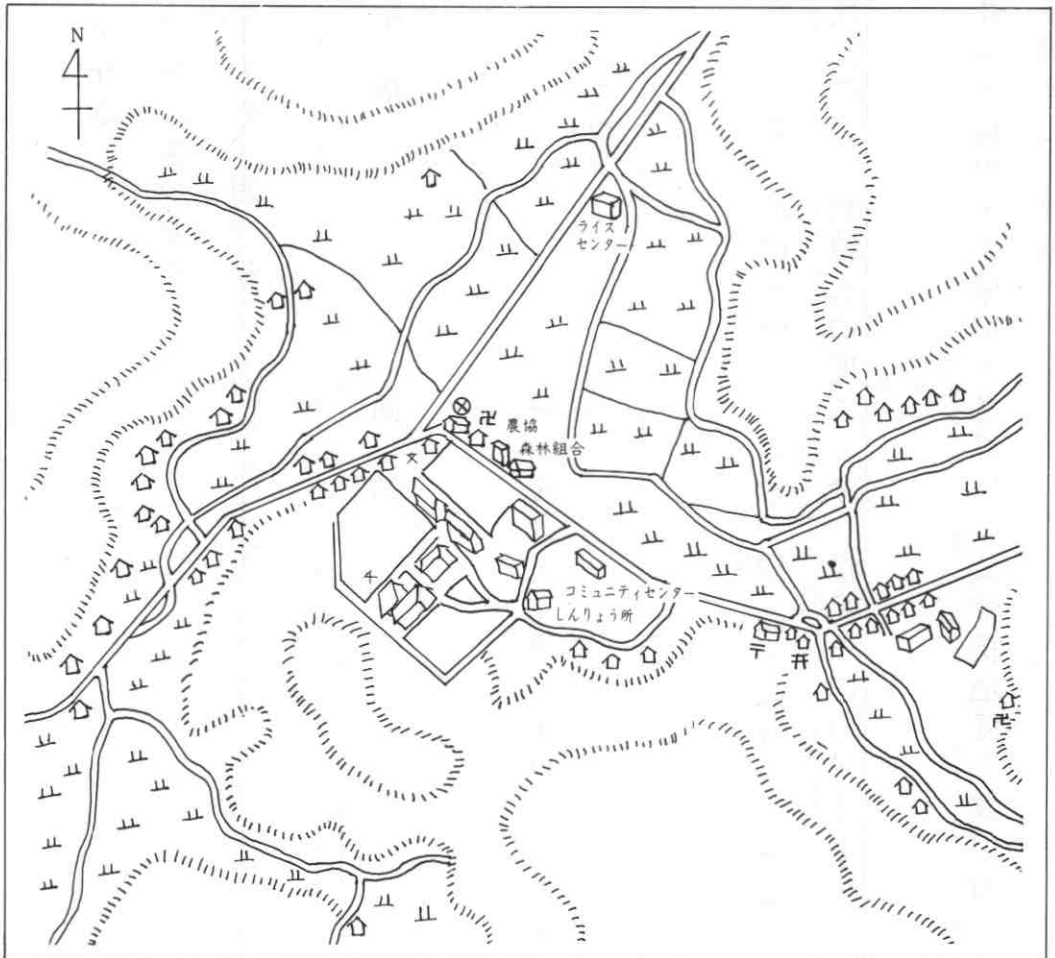
# 1、学校のまわり

## (1) 福川小学校のまわり

わたしたちの学校は、福栄村の中心よりわずか西の方にあり、東西に走る県道を見おろす小高い丘の造成地にあります。

学校のあるところは、東宗ぶらぐで、村役場をはじめ、コミュニティセンター・森林組合・農業協同組合・ちゅうざい所・保育園・福川中学校などの主なたて物が、あつまっています。村の中心地区になっっています。学校のうら手は、ほとんど山ですが、正面からの見晴らしはよく、村の土地のようす

学校を中心とした絵地図（福川小学校）







学校の北がわのようす

がよく見えます。北がわからじゅんによく見ていきましよう。

○学校の北がわのようす

学校のすぐ北がわを見ると、紫福地区へ行く県道が走っています。県道ぞいにライスセンターがあり、まき牧やおしほら押原ぶらくでは、たな田のようすがよ

くわかります。また、

牧には大きなたきが

あります。北の方に

は、かみむしろの上にほだに蕙野や仁保谷

ぶらくがあります。

上蕙野から、三四九

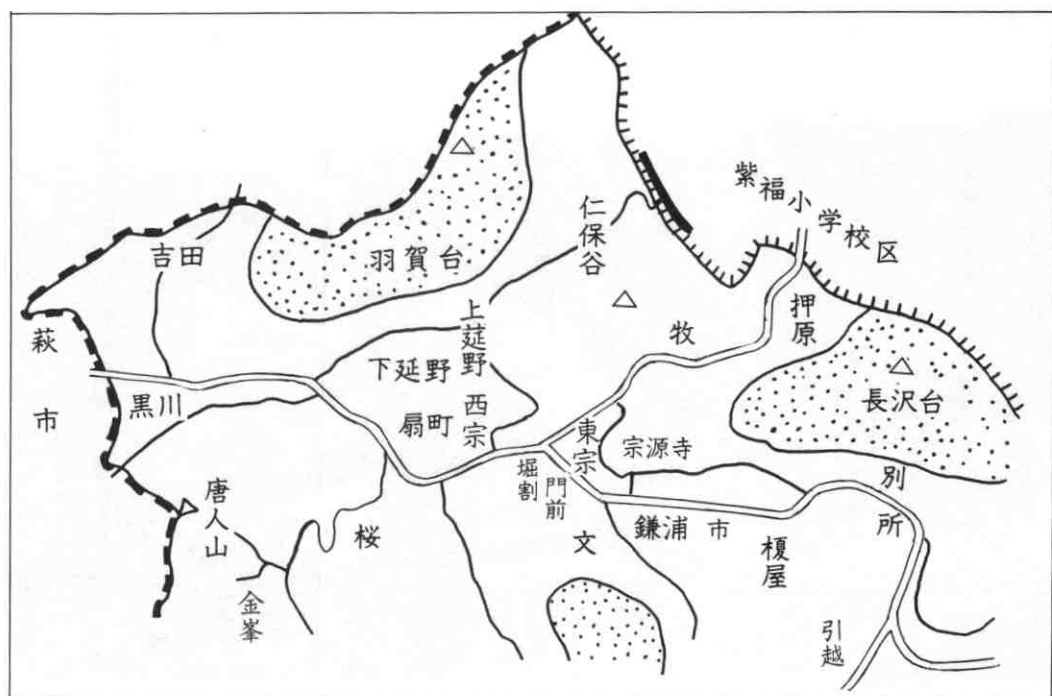
メートルのはがのだい羽賀台と

よばれる台地をこす

と、萩市の大井に行

たな田のようす





けます。台には米やはくさいやにんじんなどが作られていきます。この台地の東の方には大井川おおいが流れていきます。羽賀台へは、大井川からポンプで水をくみあげています。

○学校の西がわのようす

校しやの後ろにあたる西がわは、山に面してい

て見晴らしがききま

せんが、その山向こ

うには、県道が萩市

に向かつてのびてい

て、扇町おうぎまちや下しも蕨野むしろの・

黒川くろがわ・吉田よしだのぶらく

があります。

扇町のとうげから

南へ行くと、桜さくらや金み

学校の西がわのようす

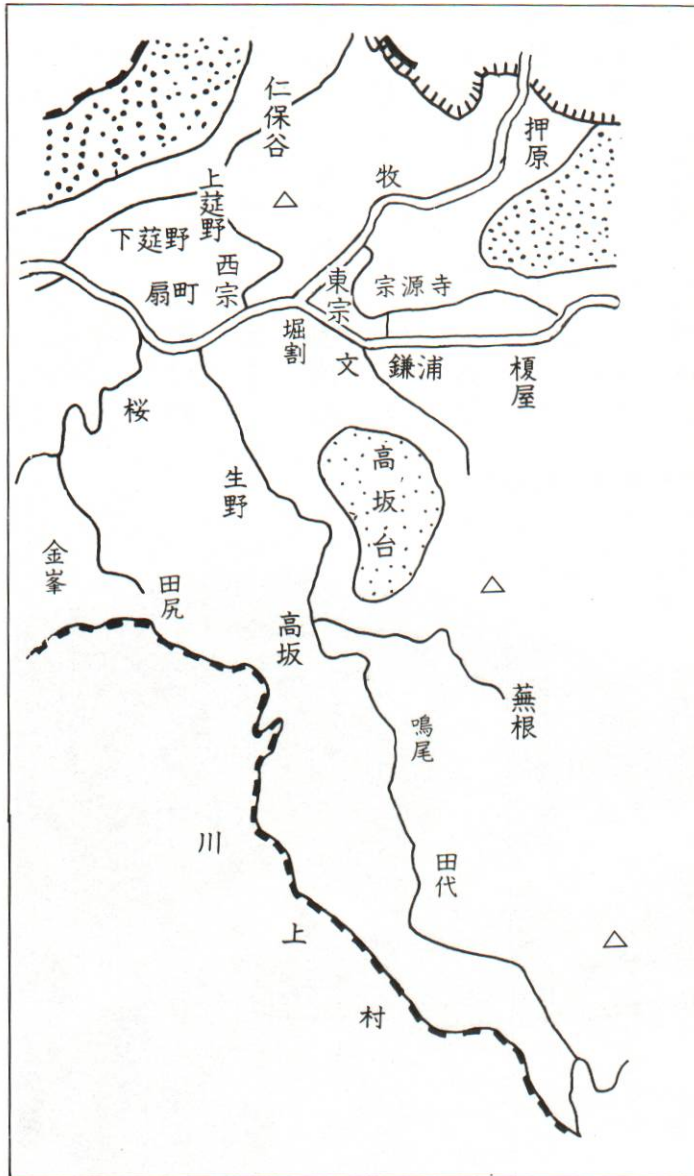


峰のぶらぐがありす。金峯には、台上にひらけた田畑があります。四六四メートルの唐人  
 山にのぼると、萩市が見えす。

○学校の南がわのようす

グランドの南がわは森や林がつづき、その山向こうが見られません。けれども山をこえる  
 と生野ぶらぐがあり、高坂台がある高坂・鳴尾・蕪根・田代などのぶらぐへ行ける村道が通つ  
 ています。

これらのぶらぐでは、  
 高坂台や山のあいだの  
 田畑で、米やたばこな  
 どが作られ、しいたけ  
 さいばいも行われてい  
 ます。また、どのぶら  
 くもバス路線の県道か  
 らはずれて、奥が深く、  
 ここを流れる小さい川



は、阿武川あぶに流れこんでいます。

○学校の東がわのようす

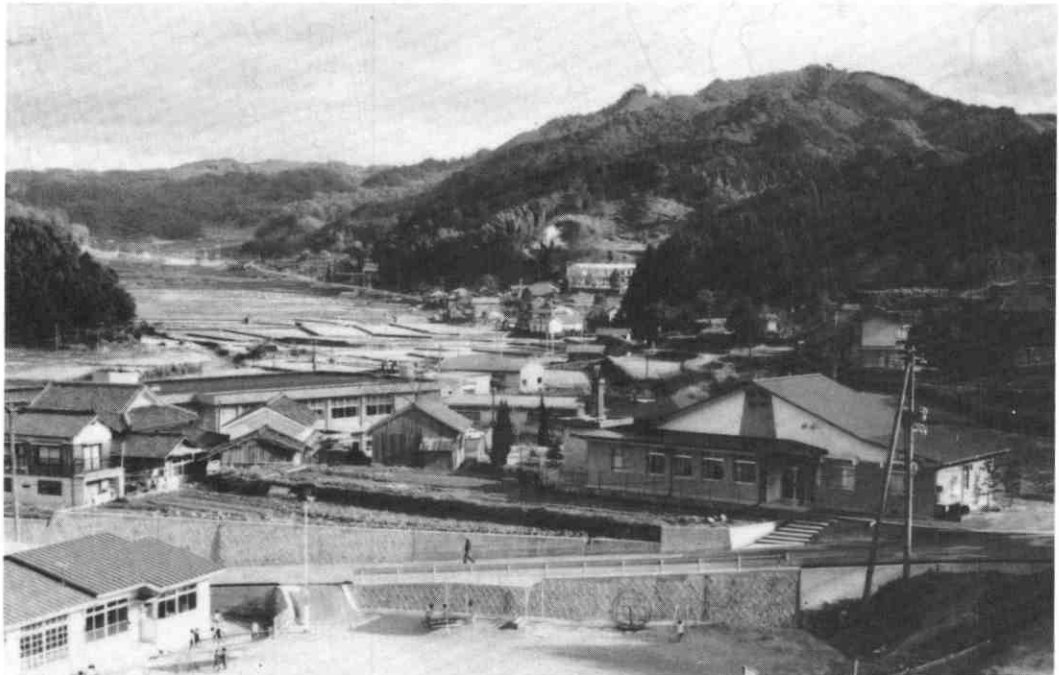
学校の下を県道が東西に走っていて、福栄村の福川地区くは、この県道にそってひらけています。

県道を東に行くと、ゆうびん局やもとの小学校のあつた鎌浦かまうらぶらくの家が、県道わきにならび、榎えのき屋や・別所べつしよ・堂ヶ迫どうがさこ・山崎やまさき・文捨ぶんじやぶらくなどがあります。そして、むつみ村へとつづいています。

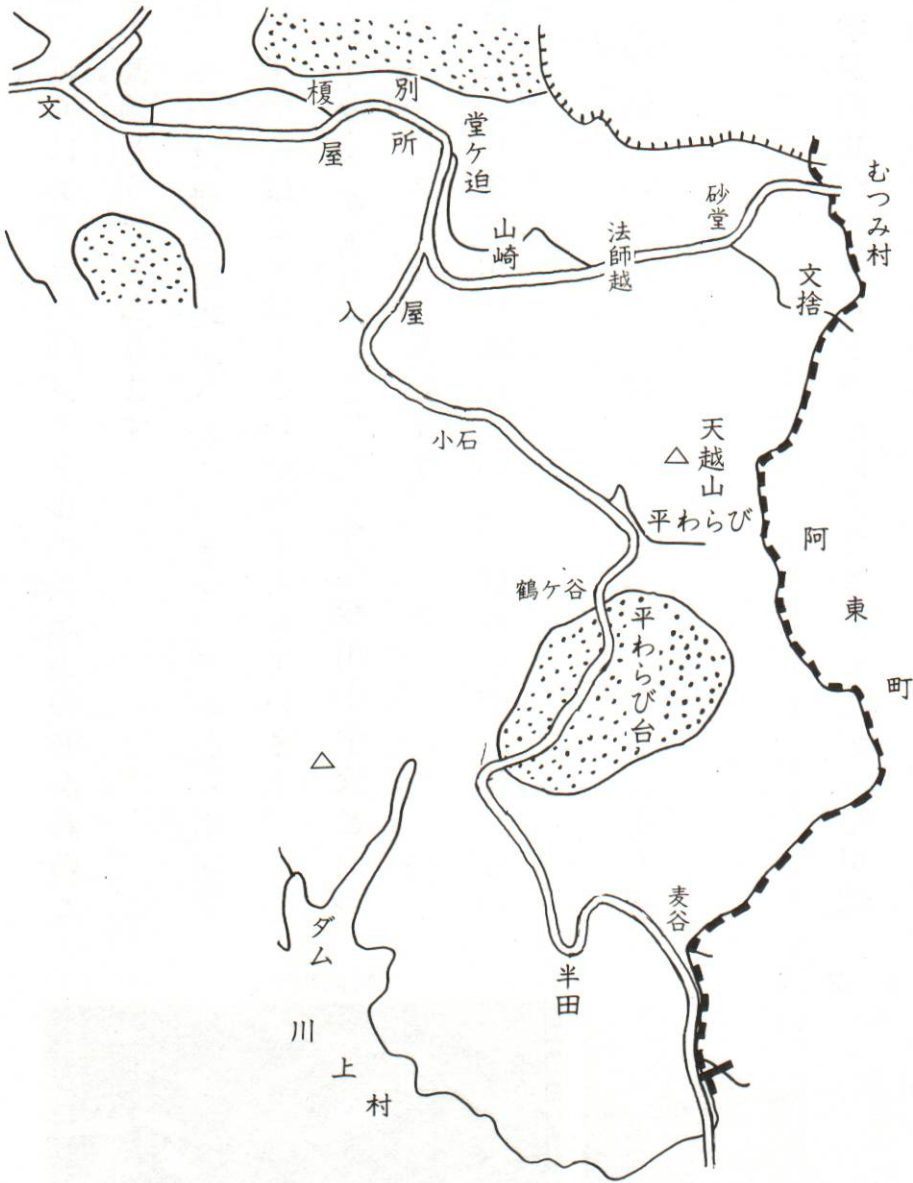
山崎と砂堂の間が法師越ほうしごえのとうげになっていて、ここをさかいに砂堂の方へは、長尾川ながお、村の中心地区の方へは、福井川が流れています。ぶらくの家は山すそにちらばっていて、古いお寺もまじっています。

村のほぼ中央の長沢台ながそうだいには、すぎやひのきが植林されています。四六ニメートルの頂上には、テ

学校の東がわのようす



レビとうがたっています。台の東の方には畜産団地ちくさんだんがあつて、牛が飼かわれています。山崎からわかれて南の方へ行く県道は、うねうねとまがりのおおい道で、入屋いりやぶらくへと登のぼつて、小石こいしのとうげをこえ、平蕨ひらわらび・鶴ヶ谷つるがたに・半田はんた・麦谷むぎだにのかくぶらく・阿武川あぶダムへとつづいていきます。



小石とうげは、近くにある五八〇メートルの天越山あまごえの西がわのとうげです。山道の高須たかのすとうげもあります。

平蕨台の畑は、今では耕地整理こうちせいりがされています。ダムからポンプで水をくみあげ、米やたばこ・はくさいがつくられています。

半田には、半田小学校がありました。今は福川小学校といっしょになり、スクールバスが通かよっています。

麦谷には、景色けしきのよい麦谷川が流れていて、ほたるやかじかもいます。

佐々連さざれ・清宗きよむね・仮館かりやかたというぶらくは、ダムをつくる時になくなりました。

このように、学校の北がわからじゆんに見てきましたが、福川地区のぶらくは県道ぞいか、山あいあいののぶらくに分けられます。また、山や台地がおおく、川は四方に分かれて流れています。

平 蕨 台



阿武川ダム



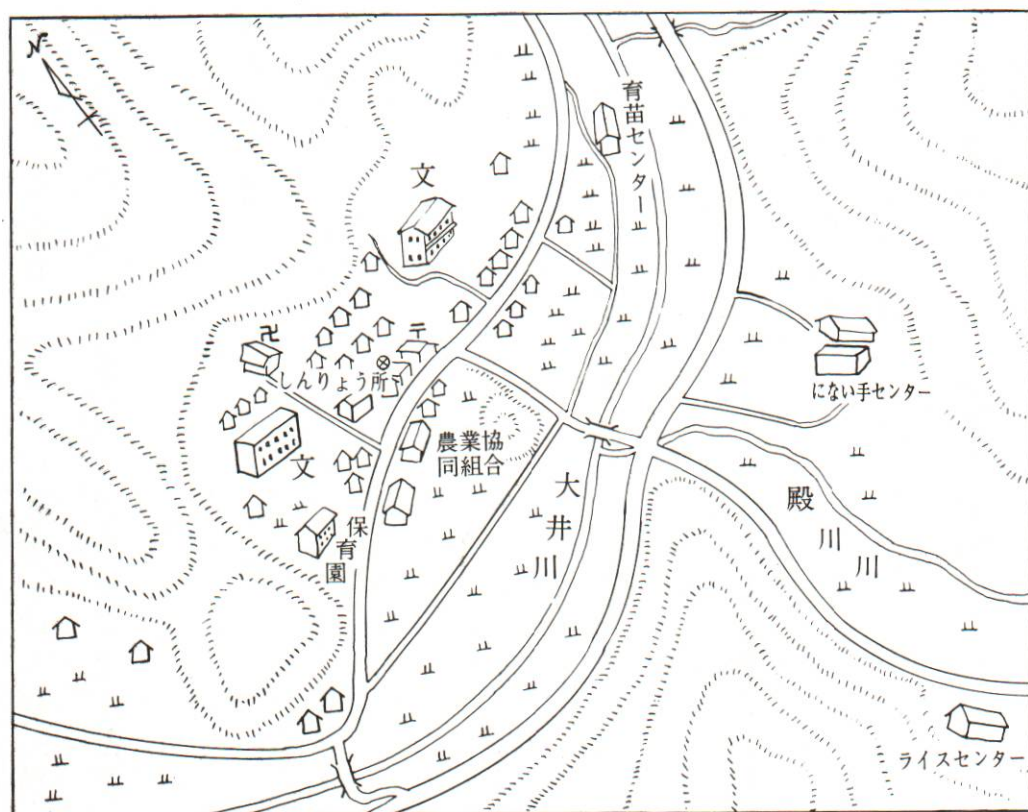
## (2) 紫福しほ小学校のまわり

わたしたちの学校は、福栄村の北の方  
にあります。学校の東がわを、大井川が  
流ながれています。この大井川は、校区の北  
の方から流れ出し、学校の近くを通った  
あと、大きく西にむきをかえて、日本海  
に流れこんでいます。

この大井川にそって、平地へいがひらけて  
おり、この平地には、いくつかのぶら  
ができています。田んぼも、この平地に  
あつまっています。県道も、この川に  
そって走っています。萩はぎ・大井き・吉部きべ・  
福賀かぐなどに行くバスが、この県道を通っ  
ています。

わたしたちの学校のあるぶらはたは、畑

学校を中心とした絵地図（紫福小学校）





学校の北がわのようす

と違って、紫福地区の中心にあたります。ここには、中学校のほか、保育園・ゆうびん局・しんりょう所・農業協同組合（のうぎようきようどうくみあい）・ちゅうざい所・役場の支所・農業担手育成センターなど、主なたてものがあつまっています。

○学校の北がわのようす

小学校を出ると、県道が南北に走っています。この県道を北に行くと、中山（なかやま）になります。ここから東がわの川むこうが、田中（たなか）です。大井川にそって西に曲がると、小野田（ののだ）に行き、県道をさらに北へ行くと、市（いち）になります。県道は、ここから、大井川の支流（し）にそって東にのび、栗原（ぼら）をすぎるころ、また、北にむかつて堀越（ほりこし）にはいります。堀越には、大井川第二発電所（はつでんしよ）があります。堀越をすぎるとどうげをこすと、阿武町（あぶ）です。

市のぶらくから、北へ橋をわたると、小西見になります。大井川の上流には、山ノ口ダムが昭和五八年に完成しました。小西見（こにしみ）と小野田にまたがって、なべの形をし



た「なべ山」があります。

○学校の東がわのようす

学校の前の県道を少し北へ行くと、「吉部きべ四キロメートル」と書かれた、道路ひょうしきが立っています。そこを東にまがって大井川をわたると、バイパスが走っています。このバイパスができたおかげで、学校前の自動車の往来おうらいがたいへん少なくなり、登下校が安心してできるようになりました。

バイパスを横切ると、谷あいの道になります。少し行くと、農業協同組合のライスセンターがあります。ここから、およそ一キロメートルで、殿川とのがわに着きます。殿川をすぎると、むつみ村です。

○学校の南がわのようす

学校の前の県道を南に少し行くと、大井川に高木橋たかぎがかかっています。この橋をわたり、バイパスを横切ると、

学校の東がわのようす





学校の南がわのようす

急な山道になります。この山道を登りつめると、長尾があります。

高木橋より五〇〇メートル下流に、ドンド橋がかかっています。この橋をわたったところを、堂ヶ市といひます。このぶらくの西は、山田・向山と続いています。このあたりには、

大井川と長沢台にはさまれた平地やゆるやかな斜面がひらけています。向山では、大むかし使われた土器が発見されたということです。

堂ヶ市を南に行くと、急な山道になります。この山道を登ると、杉原があります。ここでは、牛がたくさん飼われています。

○学校の西がわのようす

学校前の県道を南に下つて西に大きく曲がると、そこが永井です。永井をすぎると、永田沖のぶらくになります。永田沖は、家もかなりこんでおり、店も何げんかあります。

このぶらくのはずれを南に曲がって、大井川をわたる

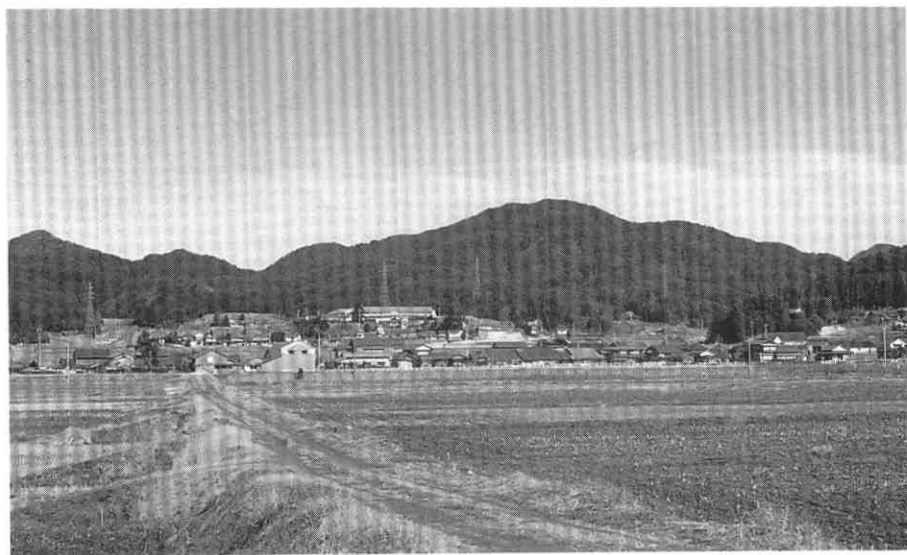
県道は、山田・向山ぶらくを通過して福川の方へと行きます。

永田沖を西にまっすぐ行くと、右手の台地には、京場・横貝・平原のぶらくがじゅんにならんでいます。この台地は、北の紫雲山しうんざんに続つづいています。平原台では、ぶどうやくりのさいばいがさかんにおこなわれています。

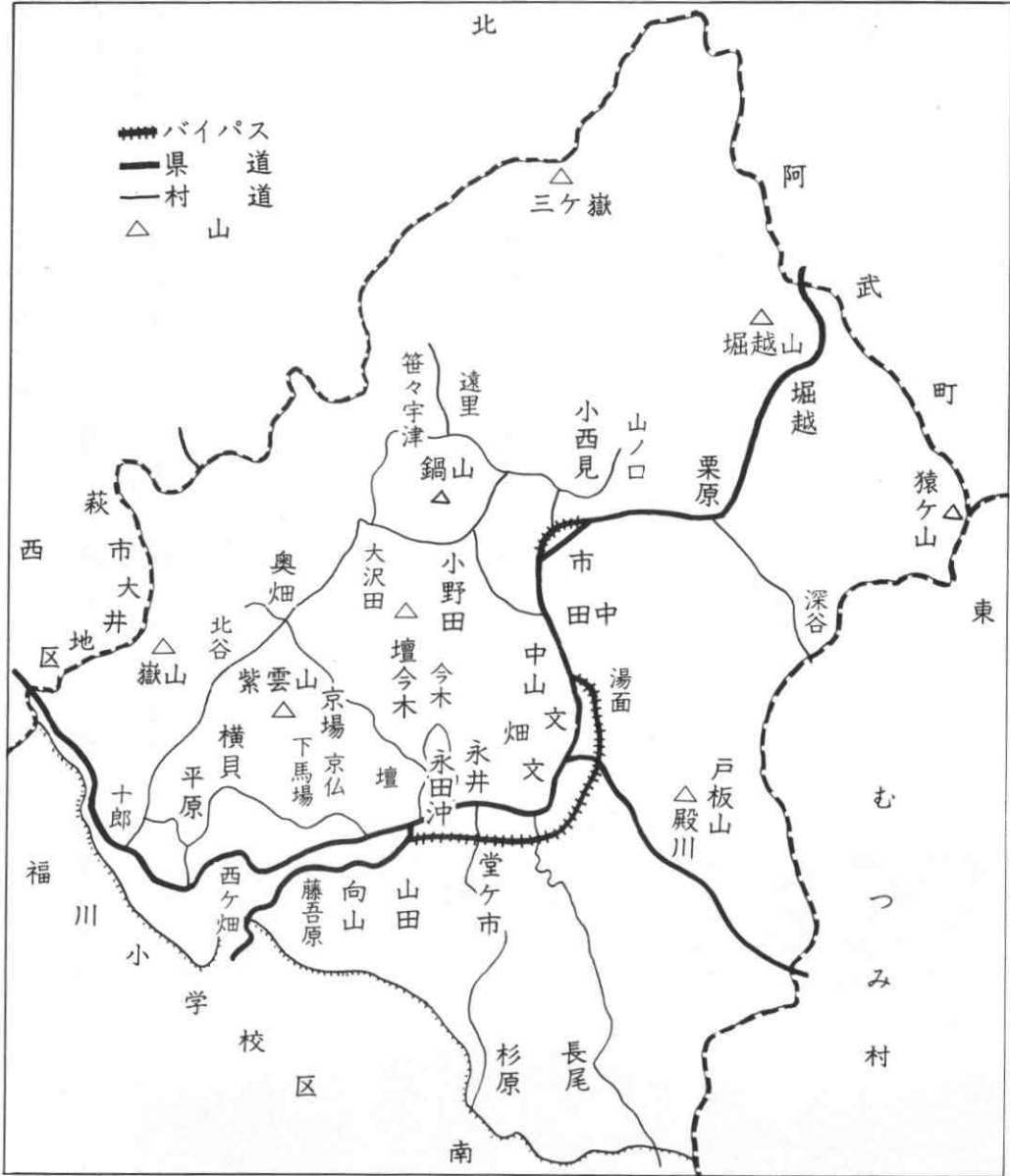
左手の大井川は、深い谷を作り、両がわは、きり立つたがけとなつてきます。この谷にそつた県道を下つていくと、まもなく、萩市の大井地区に出ています。

永田沖を北へ曲がると、壇だん今いま木きのぶらくがあり、特別養護老人ホーム「紫福園」があります。壇今木から紫雲山の東がわを北に向かつて行くと、奥畑おくばたに出ます。奥畑と京場・横貝・平原は、紫雲山をはきんで、ちょうど反対たひの方向になります。

学校の西がわのようす



紫福地区



## 2、校区の絵地図を見て

わたしたちが、学校の近くの山に登<sup>のぼ</sup>って、じっさいに見たことを、去年の三年生がつくった絵地図でたしかめてみることにしましょう。

広げた絵地図から、まず、学校をさがし、そのあと、北がわからじゆんに見ていきましよう。見ていくうちに、絵地図には、高いところから見ただけでは、わからないものも、のつていることに気づきましたか。

## 3、絵地図

### (1) 校区めぐり

わたしたちは、高いところからながめたり、絵地図を使<sup>つか</sup>ったりして、校区のだいたいのようすがわかりました。

そこでこんどは、校区めぐりをして、じっさいのようすを、もつとくわしく調べることにししましょう。

校区めぐりの計画……校区のようすを調べるためには、どうしたらよいか、みんなで考えましよう。

まず、調べる場所やじゆんじよをきめましよう。つぎに、かんさつのしかたやノートのと

り方についても、みんなて話しあつてまとめましょう。

◎気をつけて見るこゝ

○土地のようす 川・道

高い・ひくい

田畑の広がり

○家の集まり方 店・住宅・工場

大きなたてもの

○道のようす 広い・せまい

国道・県道・村道

ほそこのようす

◎きろくのし方<sup>かた</sup>

○かんさつしたことを、ノートや白地図にかく。

○その場所のようすについて、みじかい文でかく。

○かんたんな記号<sup>きごう</sup>を使つてかく。

(2) 絵地図をつくる

わたしたちは、じっさいに校区めぐりをして、家の集まり方や土地のようすを調べたり、絵地図とくらべたりしました。

そして、場所によつてようすのちがうことや、去年の絵地図とかわつているところがあることもわかりました。

そこで、わたしたちは、絵地図をつくつて、調べたことをたしかめてみることにしました。

わたしたちは、絵地図をつくるさいに、気をつけなければならないことをまとめてみました。

まず、どの方位ほういにどんなものがあるか、はつきりさせることです。

つぎに、目じるしになるものには、絵をかいたり、地図記号を使つたりすると、べんりであるということです。

◎ 絵地図のつくり方

○ 絵地図の上を北にして方位をきめ、道路・山・川など、もとになるものをかきこむ。

○ 見たものをかくときには、はじめに学校やゆうびん局など、めだつものをかきこむ。このとき、絵や地図記号などであらわす。

文学学校   干   ゆうびん局   工   工場

× 駐在所   日   神社   卍   寺

┌   橋   〓   田   〓   畑

○ 絵地図には、東西南北の方位をつける。

### (3) 絵地図をよんで

わたしたちは、新しくつくった絵地図をもつて、高いところから校区のようすを見なおしました。絵地図には、はじめに見たときのように、森のあるところや大きなたてももの・道や川・田んぼなどがはつきりかかれています。

色わけをした絵地図は、土地の高いところや、ひくいところのようすがはつきりします。また、田んぼや畑のあるところや、じゅうたく・店・工場などもはつきりしていて、とてもべんりです。

### (4) 村調べ

校区のようすがわかったら、つぎに、村全体のようすを調べましょう。

まず、福栄村全図を広げてみましょう。わたしたちの村は、どんなようすをしているでしょうか。

村は南北に細長い形をしていることがわかります。また、山や台地が多く平地がたいへん少ないことがわかります。五〇〇メートルをこす山はわずかしかなりませんが、山々が入り込んでおり深い谷をかたちづくっています。

台地は、紫福地区に平原台、福川地区に、東の木浦台、西の羽賀台、中央に長沢台、南に



鎌浦台・高坂台・平蕨台とあちこちにあります。特に、平蕨台と羽賀台は開たくが進み、米作りやたばこ・野菜作りなどがさかんにおこなわれています。また、機械化や共同化をして、近代的な農業をめざしています。

大きな川は、村の北から紫福を通過して西の大井に流れる大井川があります。福川の福井川や桜川は大井川の支流しりゅうになっています。村の南には、阿武川をせき止めて作られた阿武川ダムがあります。東と南の方の山合いを流れる小さな川は、すべて阿武川に流れこんでいます。西の方の下蒔野や吉田を流れる小さい川は、庄屋川といい萩の小畑の海へ流れこんでいます。主な道路は、萩市からむつみ村へぬける県道や半田を通過して川上村にぬける県道・福井から紫福を通過して阿武町の福賀へぬける県道・大井から殿川を通過してむつみ村にぬける県道などが通っていることがわかります。福栄村には鉄道が通っていません。だから、よその市町村にでかけるには、バスか自家用車しかありません。これらの路線ろせんが福栄村の人々にとって大へん重要じゅうような役目をしていることがわかります。

ぶらくは、主にこの県道にそって開けています。紫福の市・畑・永田沖や福川の西宗・東宗、鎌浦の各ぶらくはこの県道ぞいごいにあり、両地区の中心となっています。ここには、小中学校をはじめ役場などの主な公共こうきょうの建物が立ちならんでいます。

## 二、村の人たちの仕事

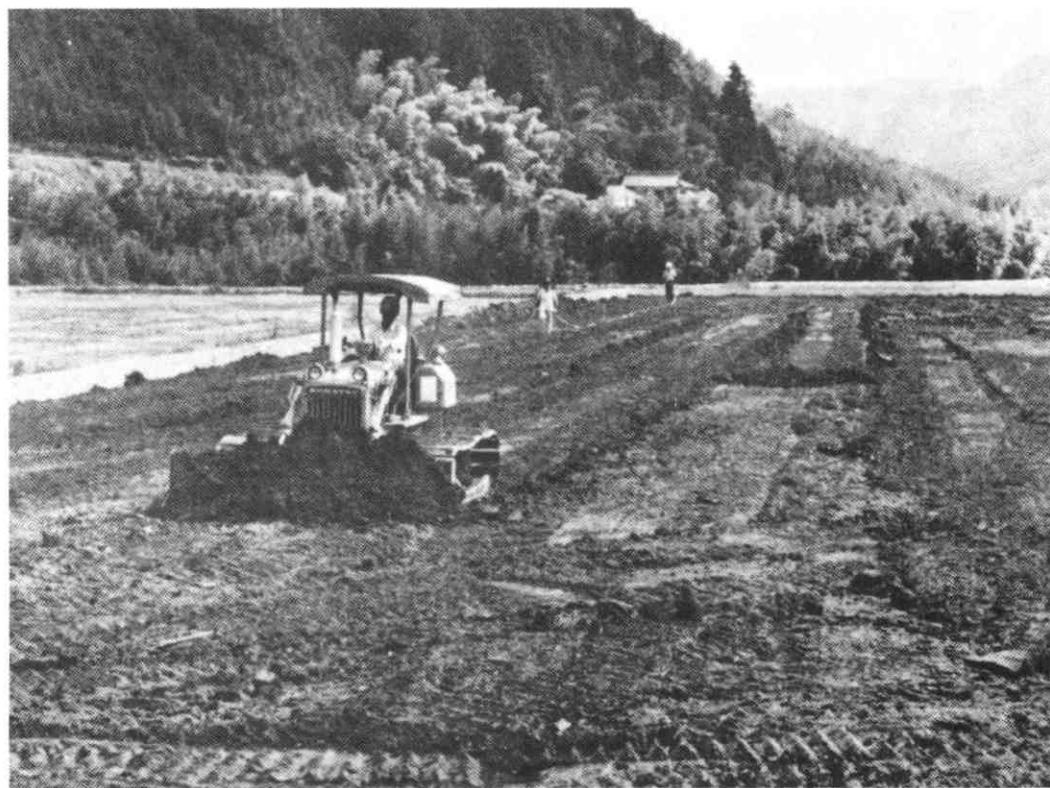
勉強のめあて

村の人たちの仕事を知るために、つぎのようなじゅんじよで調べましょう。

- (イ) 学級の友だちの家の仕事から、村全体では、どんな仕事があるかよそうしてみる。
- (ロ) 村全体では、どんな仕事をしている人が多いか。多いわけも考えてみる。
- (ハ) よそに出てはたらく人が多くなったわけを考える。

(ニ) おもに、農業について、場所によって作物がちがうようすや、仕事の苦<sup>く</sup>勞<sup>らう</sup>・くふうなどについて、かんさつしたり記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>したりする。

### 1、村の仕事調べ



基盤整備

下のグラフは、福川小学校と紫福小学校のおとうさんとおかあさんの仕事調べをして、グラフに表したものです。

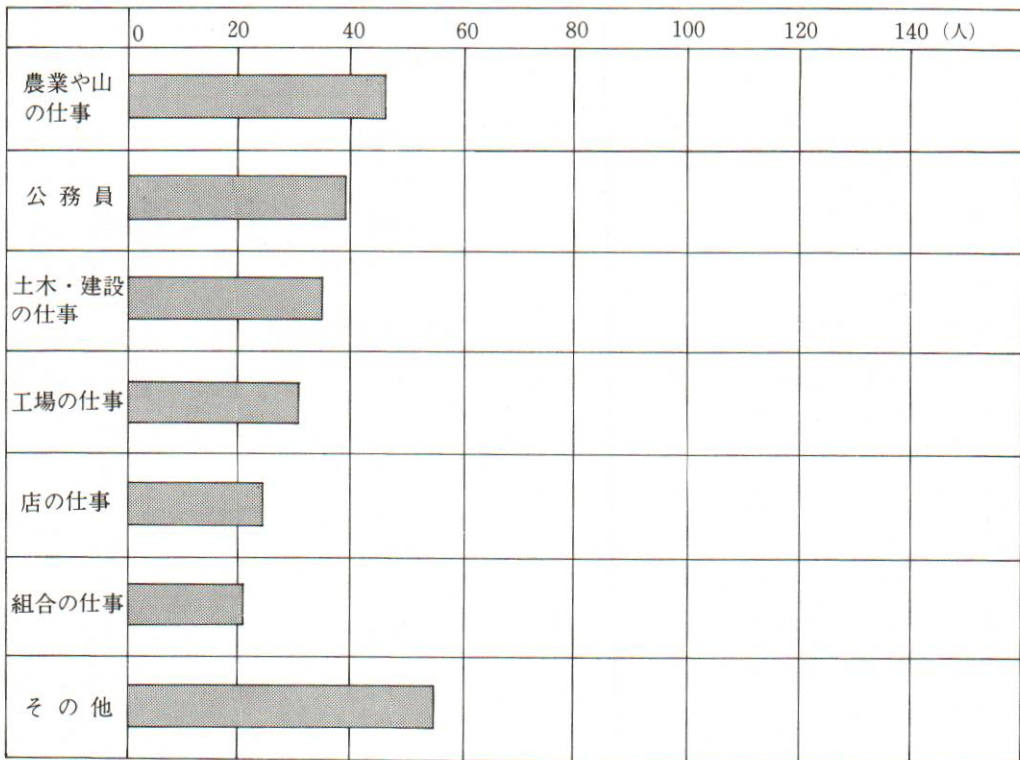
このグラフでわかるように、福栄村では、農業や山の仕事をしている人たちの多いことがわかります。

しかし、福栄村では、平地が少なく一戸あたりの耕地面積がせまいので、農業だけではくらしが立たず、ほとんどの家で、ほかの仕事もしています。福川小学校では、七四戸の内、農業だけで生活をしている家は四戸しかありませんし、紫福小学校でも、六九戸の内五戸しかありません。

おとうさんは、一年中よそではたらい

福川小学校と紫福小学校の両親の仕事調べ

(平成元年調べ)



て、おかあさんが農業の仕事をした  
り、おかあさんもよそではたらいて、  
農業のいそがしい時だけ、田畑の仕  
事をしたりすることが多くなってき  
ています。両親はよそにはたらしに  
出て、おじいさんやおばあさんが農  
業の仕事をしている家もかなりあり  
ます。

おとうさんの仕事の多いじゅんは、  
土木建設の仕事（三〇人）・公務員  
（二七人）・農業や山の仕事（一八人）  
工場の仕事（一五人）・組合の仕事  
（一二人）・店の仕事（一〇人）となっ  
ています。

それにたいして、おかあさんの仕

福川小学校の両親の仕事先 (平成元年調べ)

	自宅	福栄村	萩	その他
父	6	25	28	11
母	13	27	20	4
合計	19	52	48	15

農業をしている家の数 (平成元年調べ)

	農業をしている家の数	農業をしていない家の数
福川小	59	12
紫福小	58	10
合計	117	22

紫福小学校の両親の仕事先

	自宅	福栄村	萩	その他
父	6	18	34	9
母	17	25	14	1
合計	23	43	48	10

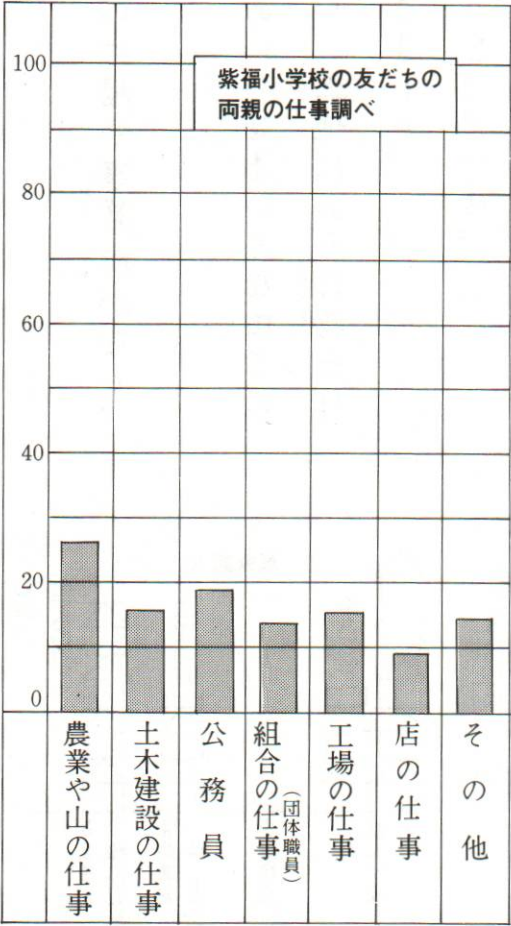
専業農家と兼業農家の数

	専業農家	兼業農家
福川小	4	55
紫福小	5	50
合計	9	105

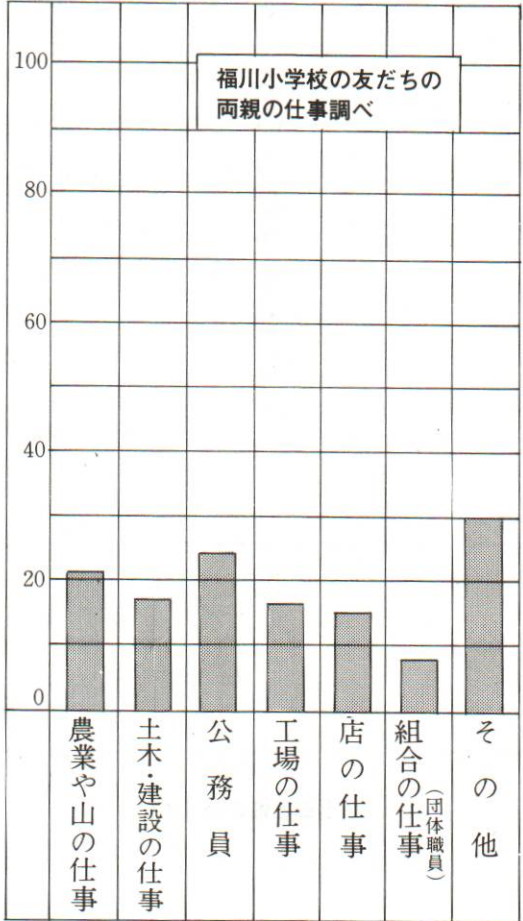
事は、農業や山の仕事（三〇人）がたいへん多く、工場の仕事（一七人）・公務員（一六人）・店の仕事（一四人）・組合の仕事（九人）・土木建設の仕事（三人）のじゅんになっっています。

両親の仕事先は、萩が一番多く、その次が福栄村、それから自宅となっっています。萩へは自動車で行ったり、会社のマイクロバスが送りむかえをしたりしています。山口市や防府市・長門市などへ通っっている人もいますし、わずかですが、県外ではたらいっているおとうさんもいます。

(人) (平成元年調べ)



(人) (平成元年調べ)



## 2、農家の仕事

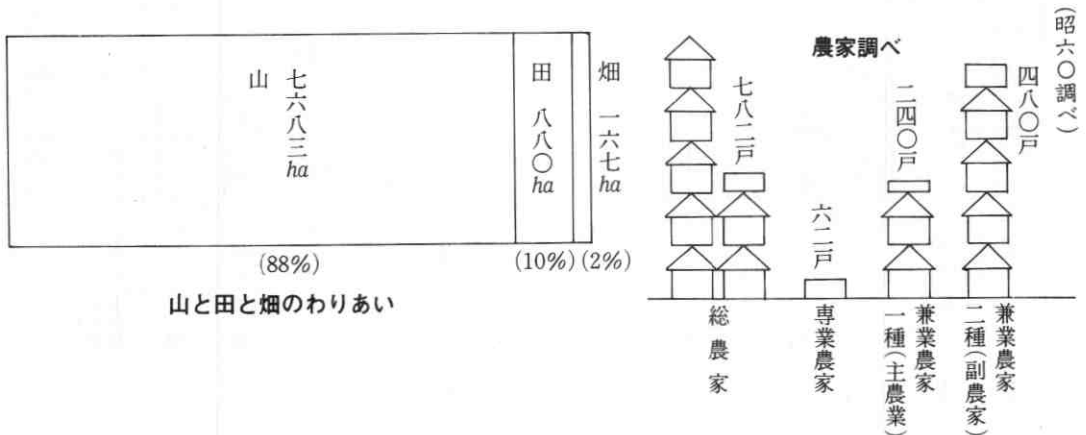
福栄村や、近くの市町村には、大きい工場や事業所じぎょうしよがなく、むかしからほとんどの家が、農家です。

山が多くて、田畑が少ない上に、山あいのせまいたな田だでの仕事には、苦勞くろうも多く、仕事のやり方や、土地にあう作物さくもつを作ることなど、いろいろとくふうされてきました。

農業でたいせつなことは、つぎのようなことです。

- 仕事のしやすい土地をつくる
- 土地にあった作物をじょうずにつくる
- 人手やお金をあまりかけない
- 作物の売り方を考える

福栄村の農家では、山の仕事やその他いろいろな仕事もして  
います。



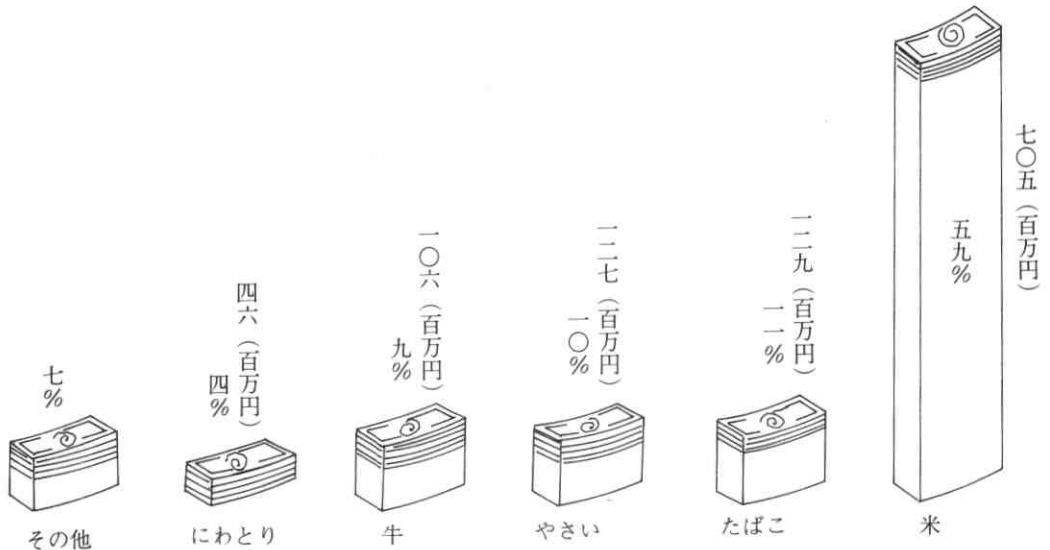


農業機械のいろいろ

(1) 米作り

村の農業は、米作りが中心です。米は、日本人の食  
 べものであり、国のたすけがあつて、ねだんが安定し  
 ているので、七八二戸の農家のほとんどが作つていま  
 す。

たな田での米作りは、  
 手がかかり苦勞が多い  
 仕事ですが、少しずつ  
 くふうされてきていま  
 す。農業の進歩や、農  
 業機かいを使うことで、  
 だんだん人手がかから  
 なくなつていきます。  
 また、基盤整備事業  
 (ひろくて形のよい田



村の農業生産物と割合



機械化作業

や水路・農道をつくり、排水はいすいをして、よい田になおし、大きい機かいが使いやすいようにする工事）が進んで、さらに、人手がかからなくなります。草やわら、堆肥たいひを田に入れて、土をよくすることにも力を入れています。

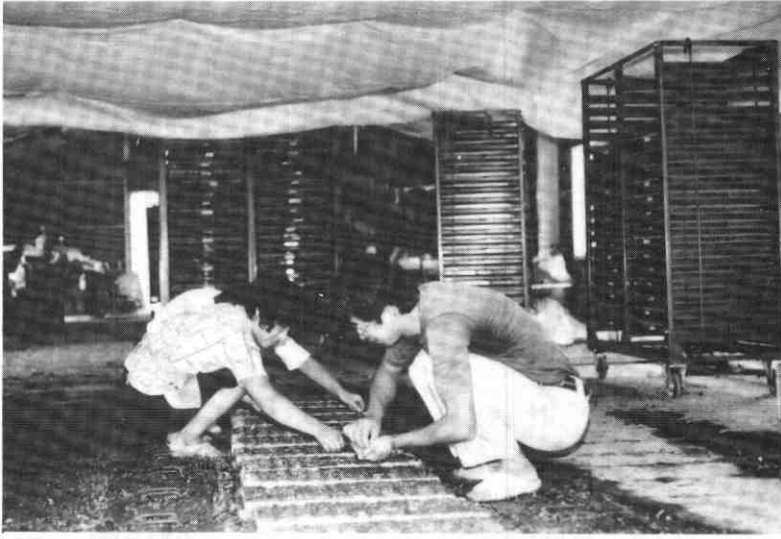
「ヤマホウシ」「ヤマヒカリ」「コシヒカリ」などの品種ひんしゅから、土地に合ったものを選んで植えています。

田植時期じき、肥料ひりょうのやり方、予防よぼうの仕方、水のあて方などは、農業改良普及所かいいりようふきゆうしよの人たちから、指導しどうを受けています。

ぶらぐで組合をつくり、共同で機かいを買い、田植えや、いねかりの仕事も共同でするようになってきました。また、もみをライスセンターへはこべば、出荷しゅつかまでできるしくみになっています。

育苗センターいくびようができて、苗なえを育てるようになりました。近ごろ日本では、米いがあまるようになり、転作てんさくといって、米以外のものを作ることが、すすめられています。

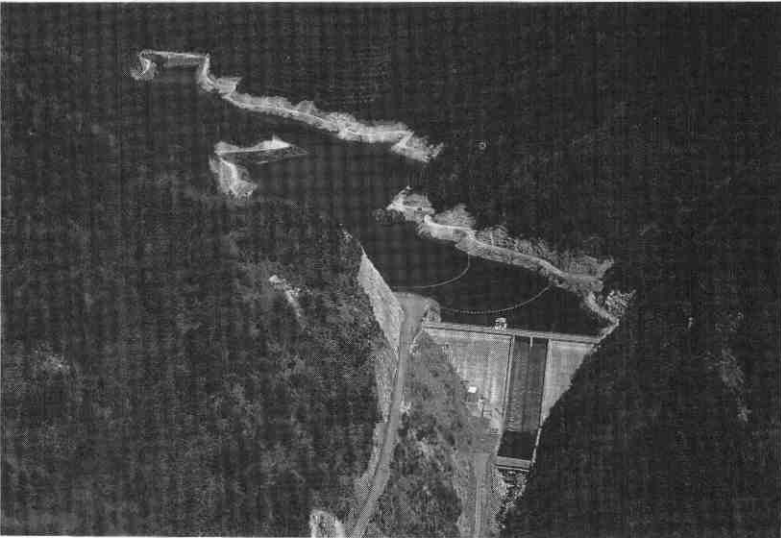




紫福育苗センター



福川ライスセンター



山ノロダム

## (2) たばこ作り

福栄村では、むかしからたばこ作りが、行おこなわれています。半田地区は、台地を利用したたばこ畑が一面いちめんにひろがっています。福川、紫福両地区で、およそ五〇戸の農家が、たばこ作りをしています。

たばこは、なえを畑にうえて大せつたいに育てそだて畑おとなのせたけほど大きくなってから、葉を一まい一まい取とって、かんそう室しつへはこび、火をたいてかんそうさせるので、たいへん苦くろうの多い仕事です。

しかし、米について大せつな農家のしゅう入のうきようの一つです。農協の人のうきようも、たばこ耕作組合こうさくぐみあいなどと協力きようりよくして、たばこ作りを、もつとさかんにしようと、世話せわをしています。

たばこ



### (3) やさい作り

紫福地区では、白菜はくさいなどのやさい作りを、はやくからはじめていました。今では福川地区でも、台地でやさいを作つて、出荷する農家がふえています。

おもに、白菜・キャベツ・人参にんじん・なす・メロン・

いちごなどを作つています。作物によつてはビニルハウスを使つて、とれる時期じきをずらすなどのくふうをしています。

福栄村では、なす・人参・白菜・スイートコーン、紫福地区では、白菜とキャベツが、指定産地しきていさんちになつて、ねだんが、保ほしようされています。

農家の人の話によると、病害虫びやうがいちゅうの予防よぼう、連作れんさく（毎年まいとし同じところに同じ作物を作ること）ができないことなどの苦勞くろうやむずかしい問題もんだいも多いそうです。

やさい畑



#### (4) その他

わたしたちの村は、まわりに多くの山があります。この山を利用して、しいたけ作りをしている農家もあります。すぎの林の中には、しいたけのきんをうったげん木がみごとにならべられています。

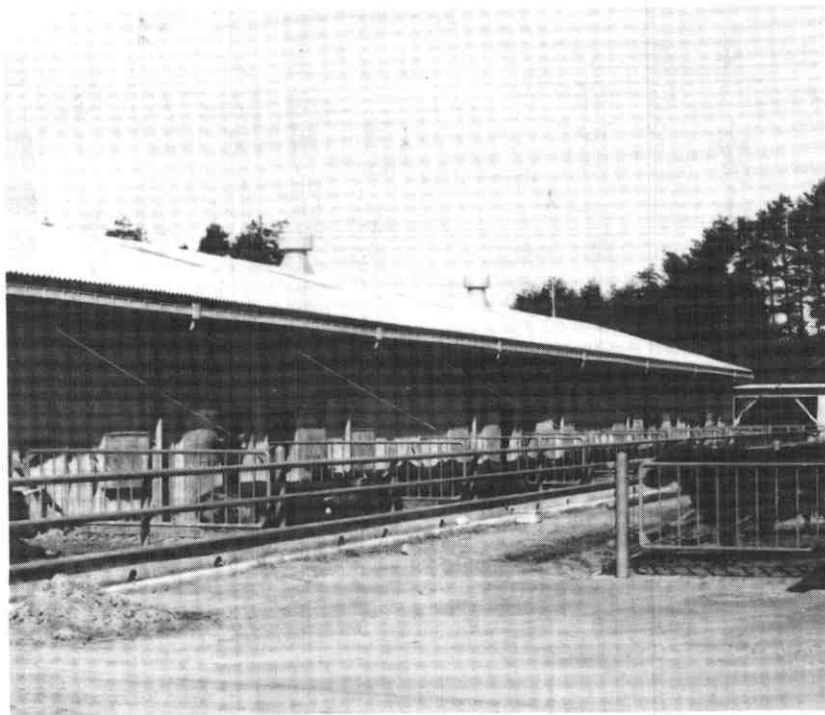
しいたけは、春と秋にとり入れをします。そして、かわかし、森林組合しんりんくみあいで加工しておもに県外におくつていきます。また、一部は、なましいたけとして市場いちばに出すこともあります。

紫福地区の平原では、三〇年ぐらい前に、原野げんやを切りひらいて、くり園えんをつくりました。九月から十月にかけて、休日きゅうじつには、観光客かんこうきゃくでにぎわうこともあります。また、とれたくりやぶどう・メロンは、県内しゅうなかに出荷しゅつかします。

冬から春にかけて、木のせんでいをしたり、肥料ひりょう

平原果樹園





長沢台の畜産団地

をやったり、がい虫ちゅうや病氣びようきのよぼうなどをします。十一戸この農家が、共同きようどうで仕事をしてい  
ますが、ねだんが安定あんていしてないので、苦くろうも多いようです。

長沢台には、山林を切りひらいて広い草地くさちがつくられ、約三五〇頭の牛が、畜舎ちくしゃで飼かわれ  
ています。無角牛むかくが多く、肉牛にくぎゆうとして県外けんがいや県けん  
内ないに出されます。ここでは、トラクターや大型  
の草刈機くさかりきなどがそなえつけられ、すべて機械化  
されています。

このほか、にわとりやぶたを飼かっている農家  
もあります。紫福地区には、まつたけの生はえる  
山があり、秋になると、まつたけがりに来くる人  
もありません。

### 3、農業協同組合（農協）の仕事

農協は、農家の人たちの、仕事  
や暮らしをよくするために、つく  
られたものです。

生活用品や農業に必要なものの  
販売、機械器具の修理、作物を作  
るための指導、米の保管や作物を  
あつめて売る仕事などのほか、貯  
金や保険の仕事をしています。  
○農協でしらべてみましょう。

### 4、山の仕事

まわりが山にかこまれている福  
栄村では、山の仕事は、苗木うえ、  
下がり、枝うち、間伐などがおも  
な仕事です。林道もだんだんつく



られて、仕事に行きやすくなったばかりでなく、木のうんばんにも、べんりになりました。炭やき、しいたけづくりの仕事もあります。

### 5、森林組合の仕事

森林組合は、山の仕事がしやすいように、指導したり助けたりするところです。

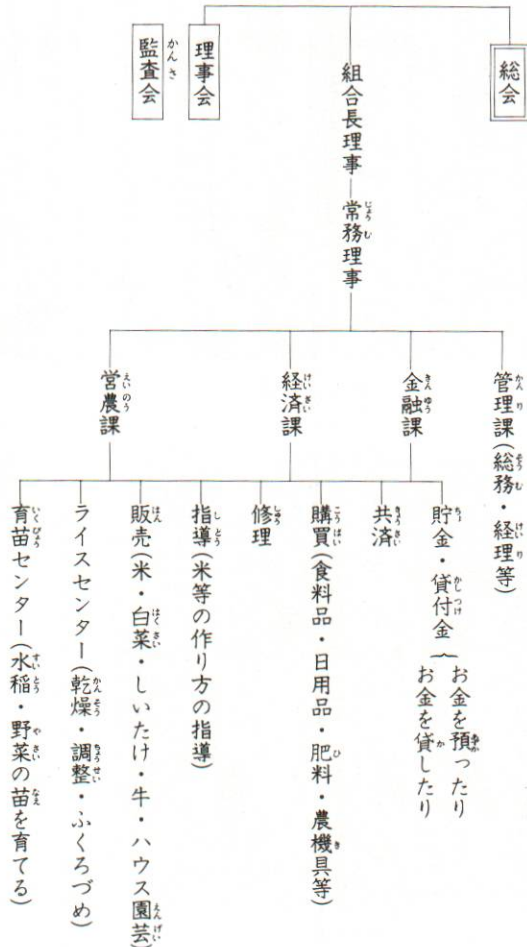
すぎ、ひのきなどの苗を山に植え、三、四〇年いじょうたつた大

きい木を、切りだして売る世話をしたり、しいたけやなめこ作りの指導やそれを売り出す仕事もしています。福川地区では、竹を切り出す仕事もします。

### 6、店の仕事

福栄村には、福川の堀割、鎌浦(福井市)、紫福の永田沖、畑、市あたりに小さな店が集まっています。

農協のしくみ





福栄村森林組合



竹材の出荷



桧 林 (堀越)



竹 林 (押原)



しいたけのほだ木



ほしたけのこ (森林組合)



○わたしたちの家では、くらしにひつようなものを、どこで買<sup>か</sup>っているでしょう。買<sup>か</sup>いものしらべをしてみましよう。

○商店<sup>しょうてん</sup>に品物がくるまでのようすをしらべてみましょう。

## 7、その他

福川には、自動車の修理<sup>しゅうり</sup>工場や電気<sup>でんき</sup>の部品を作る工場、農産物の加工場、竹ひごやささらを作る竹工場などがあります。

また、工業団地<sup>だんち</sup>をつくる計画もすすめられています。

農業のひまなどときには、近くの町の工場や建設<sup>けんせつ</sup>会社、店にはたらしきに行く人がいます。



竹製品



商店

### 三、村の人たちの暮らしをよくするくふう

勉強のめあて

福栄村を、住みよい村にするために、村の人たちがくふうしていることを、次のようなじゆんじよで調べましょう。

(イ) せいけつな住みよい村をつくるために、くふうしたことを調べる。

(ロ) 火事や水害などのさいがいをふせぎ、人々の安全を守るために、どのようなしくみや、しせつができていますか調べる。

そして、これからの計画などについても、話し合ってみましょう。

一、くらしをよくするくふう

#### (1) 村をきれいに

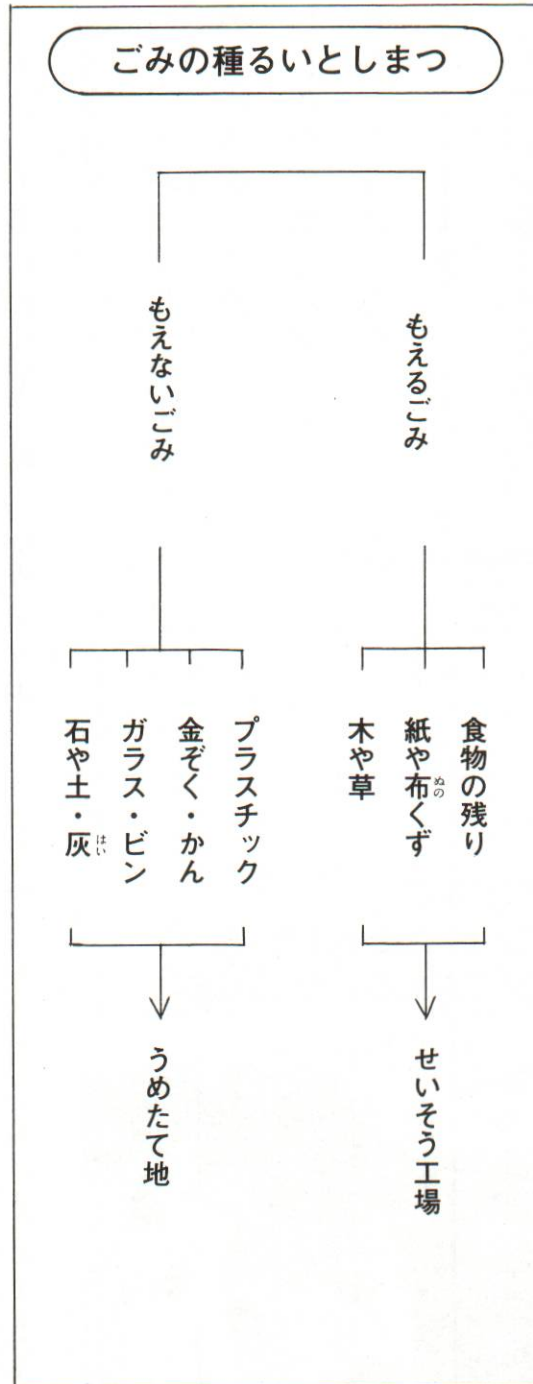
だれでも、せいけつで住みよい村にくらしたいとねがっています。しかし、住みよい村に



村 議 会

するためにも、いくつかの問題を解決しなければなりません。家ていから出されるごみもそのひとつです。

ごみは、大きく分けると、次の表のようになります。



ごみ集めの自動車が使われるまえ、みなさんのうちでは、どのようにしまつさされていたのでしょうか。

これまで家々では、にわのすみでもやしたり、畑のすみにあなをほってうめたりしていました。また村では、ぶらくごとに、近くの山や川に、ごみをすてる場所がきめてありました。

そのため、山や川の近くには、すてられたごみの山がたくさんできました。これでは、美しい山や川がよごれてしまえばかりでなく、おそろしい伝染病でんせんびょうのはやるしんぱいもでてきました。  
**ふえるごみ**

つぎのグラフを見ると、だんだんごみのりょうがふえてきたことがわかります。それに、もえても高いねつや、わるいガスを出すようなやつかいなごみがふえてきました。ごみがふえてきたのは、

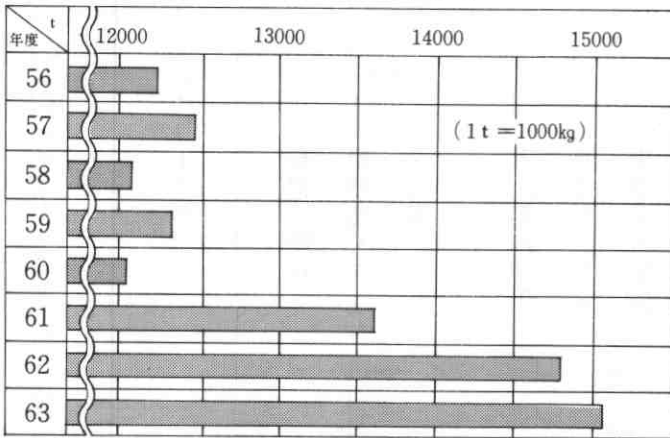
○買ったものりょうが多くなり、生活に使ったもののごみがふえた。

○生活のしかたや、品物のほうそうがかわったので、ごみがふえた。からではないでしょうか。

では、この問題を解決するために、村ではどのようなことをしているでしょう。

**しょうきやく場せいそう(清掃工場)をつくる。**

ふえてきたもえるごみの量 (平成元年調べ)



しょう  
 収集されるごみ



村では、「このごみのしまつをどうすればよいか」ということが、大きな問題となりました。しよりする工場をつくったり、きかいを買ったりするには、たくさんの費用がかかります。とても一つの村ではできません。そのうえ、けむりやにおいがでるので、まわりの人にきらわれて、工場をたてるよい条件の土地が、なかなかみつかりません。そこで、わたしたちの村と、まわりの市、町、村（萩市、阿武町、川上村、旭村、むつみ村）では、広域市町村圏組合をつくり、共同で清掃工場をつくることになりました。組合では、公害防止のことや、まわりのかんきょうのことを第一に考えて、みんなの意見をきくなど、話し合っって計画をたてました。

昭和四十九年三月に、近くにすむ人々にめいわくをかけるまいよう、住宅のない、萩市の二瀬川に工場がたてられることになりました。その工場も古くなったため、六十三年

萩清掃工場



十月に現在のよ様な近代的な清掃工場につくりかえました。この清掃工場をつくるためには、<sup>ひ</sup>く大な費用がかかりましたが、おかげで、一日八〇トンものごみがしょくやくできるようになりしました。

### ごみ集めがおこなわれるようになって

この年の六月から、各ぶらくに週二回ずつ、ごみ集めの自動車がまわり始めました。おかげで、村の人たちは、家ていから出るごみを、山や川にすてなくてすむようになりました。けれども、これですべてのごみの問題が解決したわけではありません。

清掃工場を見学した友だちは、係の人から、次のようなお話のあつたことを話してくれました。「近ごろは、水分の多いごみや、プラスチックやビニルなど、石油から作られたごみが多くて、しまつするのにてまや時間がかかってこまります。ごみを出す人に、きまりをせひ守つてもらいたいものです。」

また、ぶらくのごみの集せき<sup>しゅう</sup>所には、きめられた日がいの日にごみが出ていたり、かつてなふくろや、はこに入れて出していたりするのを見かけます。これでは、ごみを集める係りの人もたいへんだらうと思います。

村役場では、村内放送やチラシなどによって、家ていの協力をよびかけています。

○ごみはどのようにしまつされているでしょう。ごみのゆくえをおつてみましょう。  
○ごみ集めをされる人や、清掃工場の人、どんな苦勞があるでしょう。  
○「きれいな村にするために」このほかどんな問題があるでしょう。  
○わたしたちにできる協力についても話し合つてみましょう。

## (2) 村内放送

### 村の人々のねがい

わたしたちの村は、山が多く、人家じんかの多くは、山のふもとや谷あいにはちらばっています。そのため、すぐとなりのぶらぐでおこつたできごとでも、何日も知らないですごすことも多くありました。また、役場や農協のうきようなどからのれんらくも時間がかかったり、どの家へももれなくいきどごかなかつたり、とても不便ふべんをかんじていました。

「村のできごとを早く知りたい。」

「役場で、今すすめているしごとについて、そのようすが知りたい。」

村の人たちへのお知らせに活やくする村内放送



村の人々は、このようなねがいをいつも持ちつづけていました。

### 有線放送ができる

「福栄村に有線放送を」という村の人のねがいがかなって、福栄村有線放送が開局したのは昭和四十五年十二月のことです。

放送しせつができたことで、学校や役場、農協などからのれんらくもすぐできるようになりました。また、火事や水害など、さい害のおこったときに、消防団の人たちへのれんらくなど、わずかな時間でできるようになりました。

このように有線放送は、村の人々の生活を守り、くらしをよくしていくためにたいせつなはたらきをしています。

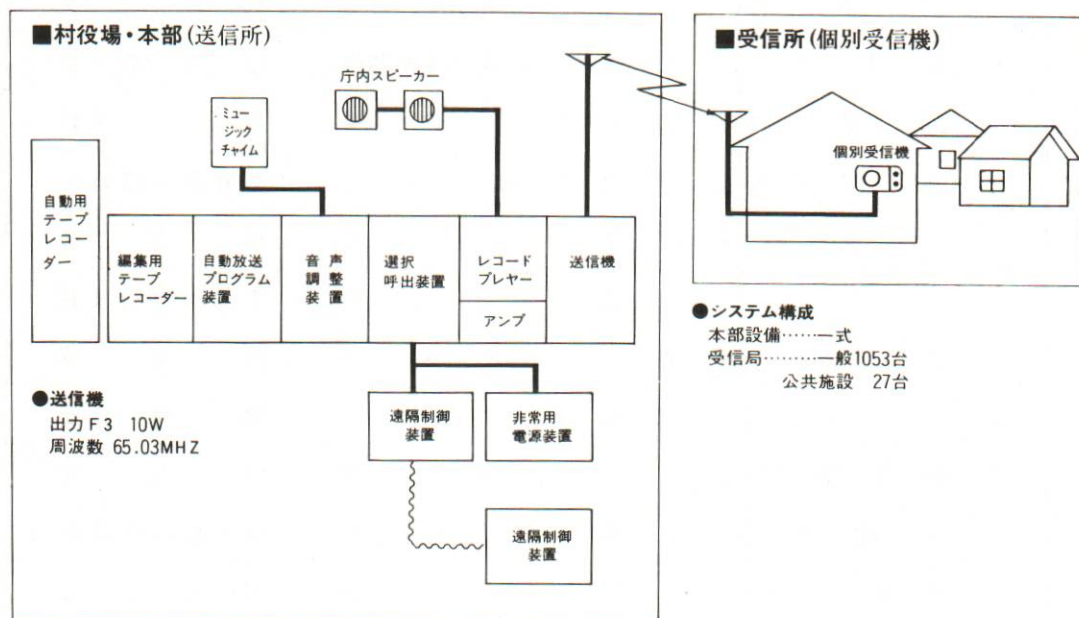
### 無線放送にかわる

有線放送というのは、村役場の中の送信所と、各家での受信器がケーブルで結ばれて、お話や音楽が送られていくしくみです。学校の放送せつびとにしています。

昭和四十七年七月の大雨は、あちらこちらで電柱をたおし、ケーブルを切って四〇日間も放送が通じないというひ害をあたえました。また、昭和五十年二月には、大雪のためにケーブルが切れるというひ害もありました。雷のために、ケーブルやきかいがこしょうするとい



## 超短波広報無線システム系統図



うことも、たびたびでした。

それで、村役場ではこのようなひ害を受けないで放送できる方法はないものかと、けんきゅう  
研究したきっかけ、「超短波広報無線システム」に切りかえることになりました。

昭和五十三年十一月二十二日、福栄村広報無線が開局しました。山口県では、最初の無線による村内放送です。

このおかげで、わたしたちは、いつも、早く情報を受けとり、生活に役立てることができるようになりました。

村内放送が、わたしたちのくらしに、どんな役わりをはたしているか放送番組表や、役場の送信所をたずねて、調べてみましょう。

平成2年福栄村広報無線自主番組表

曜日	番組	担	当
月	村政の窓	〃	村長
	林業だより	森林組合・萩林業事務所	担当職員
	政府の窓	役場	広報
火	子どもとともに	保育園・学校	保育園・担当校
	みんなの窓口	役場	担当課
水	暮らしと健康	普及所	生活改善普及員
		役場	保健婦
		福川小	栄養士
	駐在所だより	駐在所	駐在官
	保健婦日記	萩保健所	福栄担当保健婦
木	婦人会だより	婦人会	婦人会員
	若い力	青年団	青年団員
	これからの農業	4Hクラブ	農業生産者
	公民館だより	公民館	福川・紫福・半田公民館
金	農協だより	阿武福川農協	担当部
		紫福農協	担当課
	農作業ごよみ	普及所	担当普及員
	生涯学習のひろば	教育委員会	社会教育係
土	おしらせ 一週間の行事・番組案内	役場	広報
不定時	議会だより	議会	担当
	特別番組	役場	広報

※この番組表は、平常時の基本番組表であり、若干変更する場合がありますから、土曜日の行事・番組予告を参考にしてください。

※お願い あなたの家庭や部落あるいは職場での明るい話題等、係の方までおよせください。



火災現場

## 2、さいがいをふせぐ

### (1) 火事をふせぐ

私たちは、新聞やテレビで、火事のニュースを聞いたりしますが、福栄村でも火事がありました。

村には何台もの消防ポンプがあり、時々くんれんのようなすを見ることもあります。

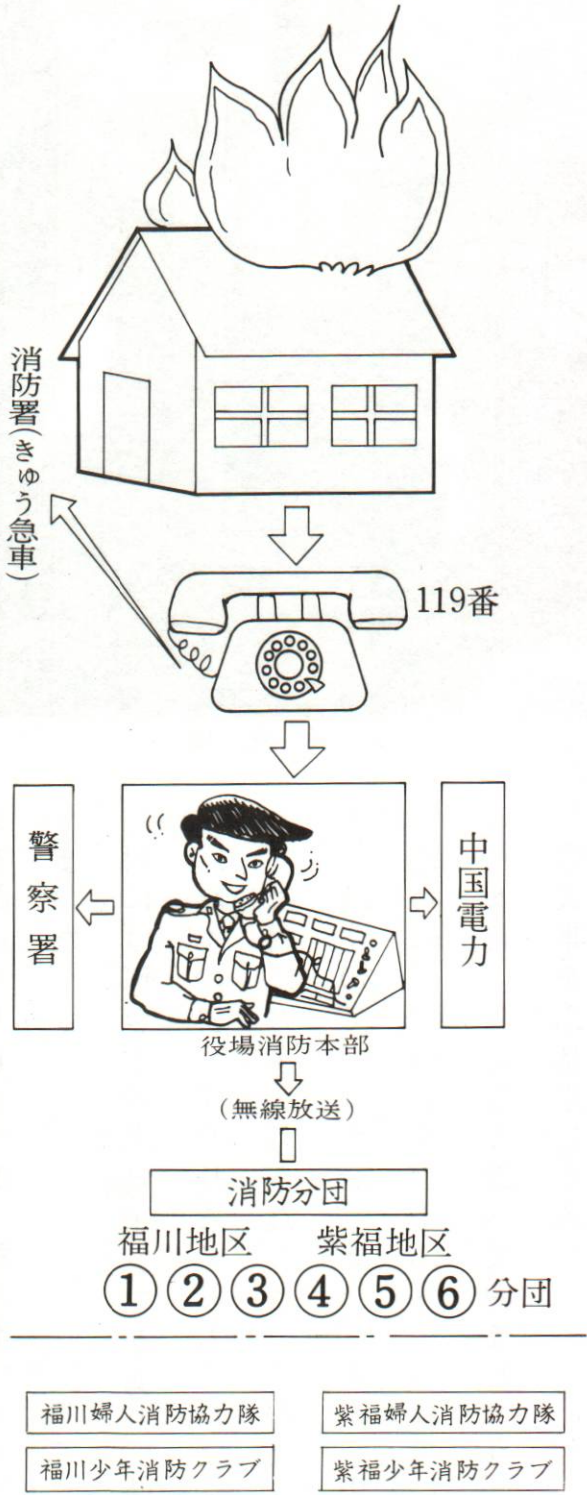
では村に火事がおきたとき、どのようにして、消すのでしょうか。また、火事を出さなために、どのようなふうがされているか、これから、みんなで調べてみましょう。

#### ○火事をふせぐしくみ

火事がおきたら、早く見つけた人が、電話で一一九番をまわすと、福栄村役場の消防本部につながります。

役場の消防本部から消防分団にれんらくされます。それと同時に無線放送を使って村全体に放送されます。

火事がおきたと連らくしたら



消防団の人たちは、火事の知らせを受けるとすぐ、火事の現場へかけつけます。村の消防団には、三台の消防自動車の外に、小型動力ポンプもあります。

火事で、やけどやけがをした人たちを運ぶために、萩消防署にあるきゆう急車が使われま



消防演習



消防自動車

消防施設表

消防自動車	三台
小型動力ポンプ	六台
防火水そう	三八基
消防団員数	一六二名

(元・九・一調べ)

出初式



す。

村には防火用水そうをつくったり、水をどる場所をきめたりして火事にそなえています。

○消防団や役場で力を入れていること。

福栄村でも、近年、何けんかの火事が起きています。

火事が起きてからでは、消すのがむずかしくなってくるため、火事がおきないようにするこ  
とも力を入れています。

○どうすれば、火事はなくなるでしょうか。

まず第一に、火事を出さないように、みんなの家庭や学校、工場、商店などをまわって、きけんな所があれば注意をして教えます。

第二に、火事を出さないための注意を知ってもらうため、お母さん方と話し合いをしたり、

消火訓練をおこなったりします。

第三に、火事のげんいんを調べて村の人たちに知らせ、注意してもらおうようにします。

第四に、家をたてるときは、もえにくい材料を使うようにすすめています。

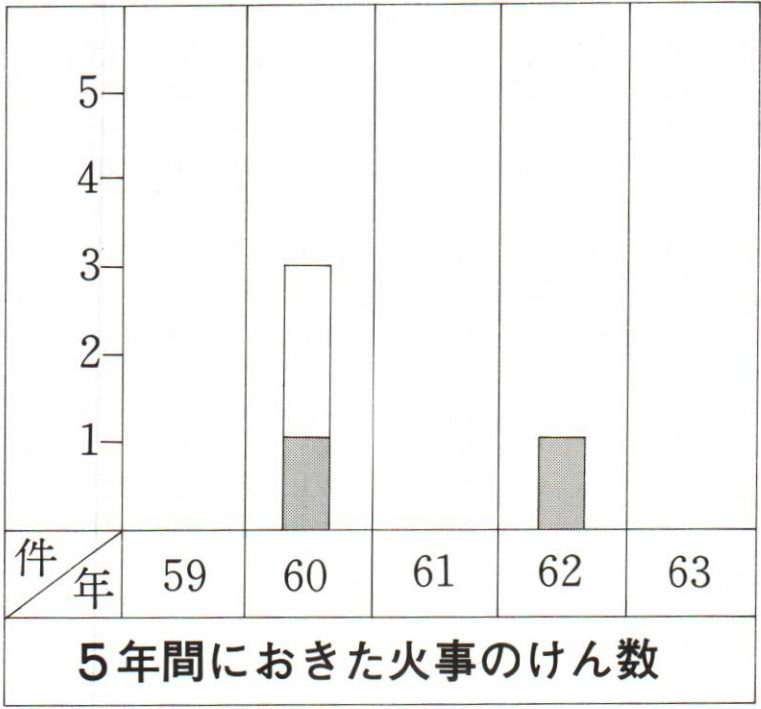
○火事を早く消すために

火事が発生しても、道路が悪いと消火に行けません。そこで、道路をよくしたり、水の便利がよいように、防火用の池をつくったりしています。

次に、消防団では、火事をすばやく消すために、ひごろから機械をせいびしたり、消防訓練をおこなったりしています。

○その他の仕事

消防団では、福川中学校や紫福中学校にある、「少年消防クラブ」や、両地区にある「婦人消防協力隊」のしどうをしています。



■ 家 □ 山

小、中学校で毎年おこなっている、ひなん訓練の時などにもしどうをしています。植林のための山やきなどでも、山火事にならないようにしどうをしています。

## (2) 大水をふせぐ。

福栄村は、大井川の上流と小畑にそそぐ庄屋川と、阿武川の上流にそつた川ぞいであり、大雨がふると水害がおこります。

山からの鉄砲水で家がおしつぶされたり、田や畑がうまつたり、がけくずれで道路が通れなくなったりします。

川の水がふえて、橋がおちたり、道路や田畑が流されたりします。

このように大水のひ害は、道路、河川、家などのほか、山林、田畑など広いはんにおよびます。

こんな時、交通がとだえたりして村の人びとは大変困ることがあります。

こうしたさい害の時、村では消防団が水防団として活やくしています。

また大雪が降った時には、役場では、じよ雪ブルドーザーで村道などの雪かきをして、村民が困らないようにしています。

昭和 55・56 年の水がいのようす



河川改修工事



鉄砲水でこわされた家

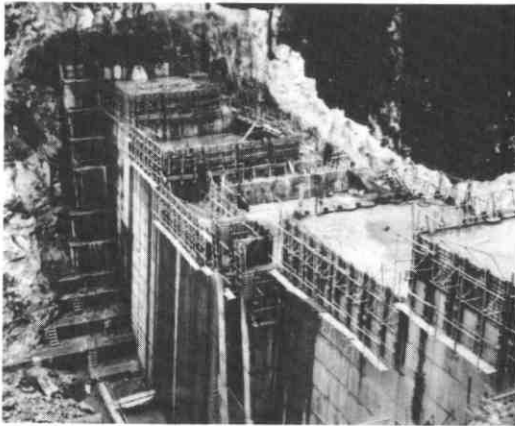


砂防工事



がけくずれでふさがれた道

工事中の山のロダム



○大水をふせぐためにどんな  
事をしているか話し合ってみ  
ましよう。



#### 四、村の人たちの願ねがい

勉強のめあて

村の人たちの願ねがいによってできたものに、どんなものがあるか、調べましょう。

(イ) 村の人たちのねがいは、どのようにしてかなえられていくか調べる。

(ロ) 村の人たちのくらしをよくするため  
のしせつには、どんなものがあるか調べる。

(ハ) これらのしせつには、どんなはたらきがあるか調べる。

このようにして調べたことを手がかりに、わたしたちの村のいろいろなしせつについて勉強することができます。

ふるさとまつり



○いろいろなしせつ

わたしたちの村には、村の人たちの願いをもとにして、村長さんや村会議員、役場の人たち、農協の人たちなどのほたらきによって、いろいろなしせつがつくられています。学校もその一つです。小さい子どもをあずかる保育園は、福川・紫福の二か所にあります。

また、わたしたちの体がいつも健康であるようにと、福川・紫福地区にそれぞれしんりよう所があり、体の



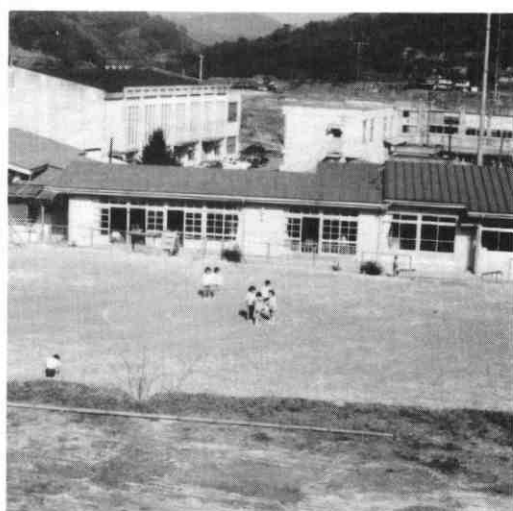
コミュニティーセンター



福栄村役場



農業にない手育成センター



福川保育園

ぐあいが変わるいときには、  
いつでもみてもらうことが  
できます。

昭和五十四年、紫福地区  
に「農業にない手育成セン  
ター」ができました。これ  
は、しょう来の農村をささ  
える若い人たちが、勉強す  
るところです。

そのほか、村には、産業・  
文化・スポーツなどにかん  
けいするしせつがいろいろ  
とあります。



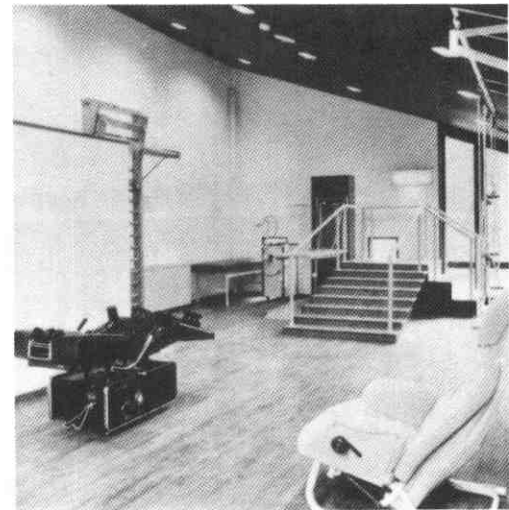
村民体育館



村民グラウンド



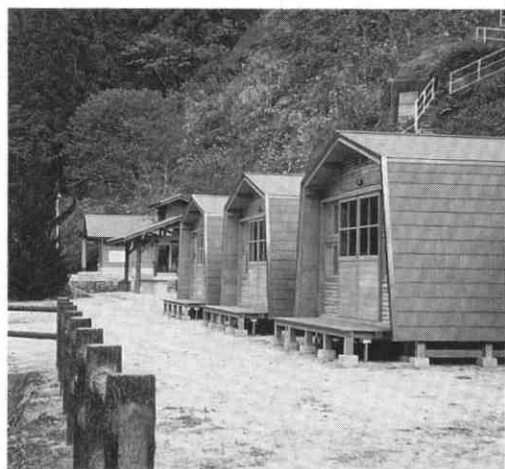
紫福診療所



老人福祉センター



山口電装社



滝の里キャンプ場



森林組合加工センター



紫福園



ふれあい百円市場



県森連木材共販所

## 五、福栄村のうつりかわり

勉強のめあて

福栄村の今と昔では、ずいぶんかわって  
います。

お年よりの人にきいて、わたしたちの村の  
うつりかわりのようすを調べてみましょう。

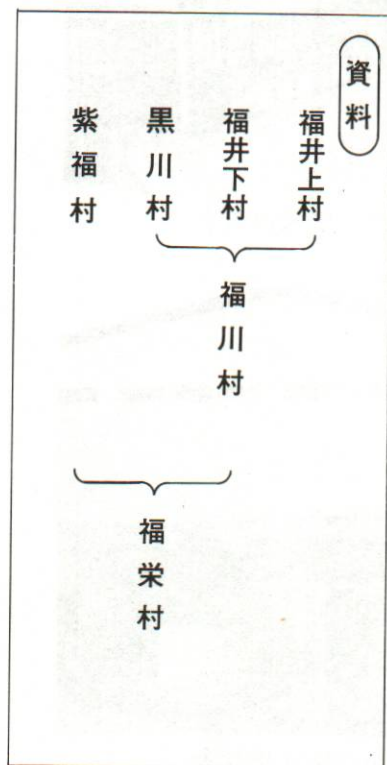
(イ) わたしたちの学校のむかしのようすはど  
うだったでしょう。

(ロ) わたしたちの村はどのようにかわってき  
たでしょう。

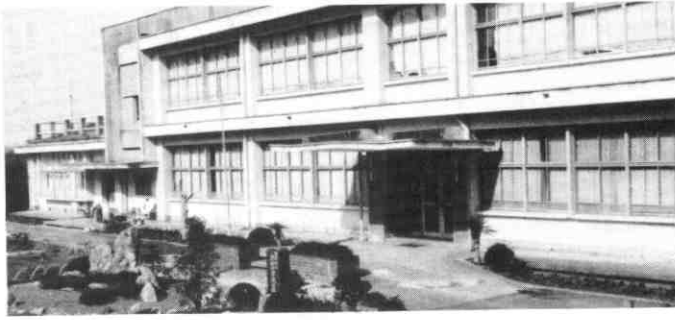
(ハ) 村の人々の仕事や、くらしのようすはど  
のようにかわってきたでしょう。

(ニ) これからの村は、どうかわっていくで  
しょう。

福栄村の昔の村



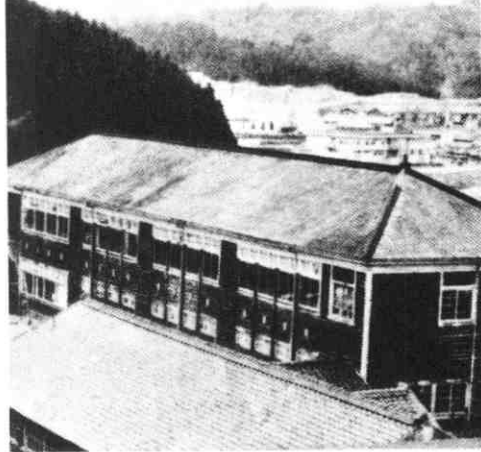
1、学校のうつりかわり



廃校時の半田小中学校



紫福小学校旧校舎



福川小学校旧校舎



紫福小学校現校舎



福川小学校現校舎

◎調べること

○校しやのようす

○じどうや先生の人数にんずう

○学校の名前

○教科書きょうかしょ

○じどうのふくそう

○遊び道具あそびどうぐや遊び方

◎まとめ方

○古いじゆんにならべる

○古いものと新しいものあたらしのちがいをくらべる

◎調べ方

○しやしんで調べる

○家の人に聞く

○古くからこの村にいる人に聞く

○古くからのこされているものでしらべる

○先生の話聞く

(I) 福川小学校のうつりかわり

時代	年	できごと	
明治	六年	福井上村に福井東小学校、福井下村に福井西小学校、黒川村に黒川小学校ができた。	
	八年	法師越・入屋・田代・半田・平蔵に分校ができた。	
	一七年	福井西小学校が及泉小学校となった。福井東小学校、黒川小学校がなくなり、山崎、黒川分校となった。田代分校が鳴尾にうつった。	
	一八年	及泉小学校と山崎分校の校舎が新築された。	
	二〇年	及泉尋常小学校となった。	
	三〇年	及泉尋常高等小学校となった。	
	三五年	半田分校が半田尋常小学校として独立した。	
	四〇年	福川尋常高等小学校となった。	
	大正	四年	校舎が増ちくされた。
		一〇年	運動場がひろげられた。



大正

一一年 黒川分校がなくなった。

一二年 平蔵分校が半田尋常高等小学校の分校となった。

昭和

九年 木造二階だての校舎ができた。

一〇年 鳴尾分校がつくりかえられた。

一一年 運動場がひろげられた。

一六年 福川国民こくみん学校となった。

二二年 福川小学校となり、福川中学校もできた。

三四年 モルタル二階だての校舎ができた。

三六年 講堂こうどうができた。

三七年 校章こうしょうができた。学校給食きゅうじょくがはじまった。

三九年 校歌こうかができた。

四〇年 山崎分校がなくなった。

四一年 校旗こうきができた。

四三年 鳴尾分校がなくなった。

四七年 学校プールができた。

五六年 半田小学校と平蕨分校がなくなった。  
五月十三日に福川小学校の新しい校舎ができて、門前にうつり、落成式があった。小中学校の合同調理も給食センターではじまった。

(2) 紫福小学校のうつりかわり

時代	年	できごと
明治	五年	紫福小学が青木ヶ峠にできた。 <sup>1872</sup>
	一〇年	紫福小学を紫福小学校と改め校舎を市にかえる。下馬場分教場（成器分校）殿川・長尾両分校ができた。 <sup>1877</sup>
	二〇年	下馬場分教場を紫福西小学校とし、紫福小学校を紫福東小学校とする。紫福小学校が紫福東尋常小学校、紫福西小学校が紫福西尋常小学校となり、殿川、長尾の両分校は簡易小学校になった。 <sup>1887</sup>
	二五年	簡易小学校が紫福東尋常小学校の分校になった。 <sup>1892</sup>
	三二年	東西の両小学校が合 <sup>がっ</sup> べいし、紫福尋常高等小学校となり、校舎も畑に新築された。殿川分校がなくなった。横貝と堀越に分校ができた。 <sup>1899</sup>

昭和	大正	明治
三年	二年	三六年
四年	一年	四二年
一三年	四三年	四二年
一六年	二二年	三九年
二二年	三四年	四二年
三四年	三九年	四七年
五八年	四七年	五八年
紫福尋常高等小学校が改ちくされた。1928	二教室が増ちくされた。1913	横貝分校がなくなつた。1903
堀越分校がなくなつた。1929	運動場がひろげられた。1911	長尾分校が火災で全焼した。1909
長尾分校がなくなつた。1938	長尾分校が新ちくされた。1910	長尾分校が火災で全焼した。1909
紫福国民学校となつた。1941	鉄筋三階の校舎ができた。1964	鉄筋三階の校舎ができた。1964
紫福小学校となつた。紫福中学校もできた。1947	校旗ができた。1967	校旗ができた。1967
	校歌ができた。1972	校歌ができた。1972
		紫福小学校屋内運動場ができた。1983

昔の学校のあとや、その後のようすを、お年よりに聞いて、調べてみましょう。  
福川地区に残っている分校の写真



平わらび



山崎



鳴尾

## 2、昔のようすをつたえるもの

わたしたちの村には、きねんひや昔のようすをつたえるものが、たくさん残のこされています。

### ○道しるべ

昔は、道路どうろが分かれるところには、行き先を知らせる道しるべがたっていました。そのころは、今のような道路はなく、小さな道しかありませんでした。

しかし、昔の人々には、この道路はとてみたいせつなやくめをしていました。この道路を人々は、木や石で作った道しるべを見ながら、旅をしていたのです。

今では、ほそうされた大きな道路ができて、古い道を行く人は、少なくなりました。そして、大きな道路には、新しい交通ひょうしきがたち、よそからはじめてきた人や、自動車をうんでんする人は、ほんとうにわかりやすくてべんりになったといえます。



大井線道路開通記念碑(永田沖)



石だたみ(平原)



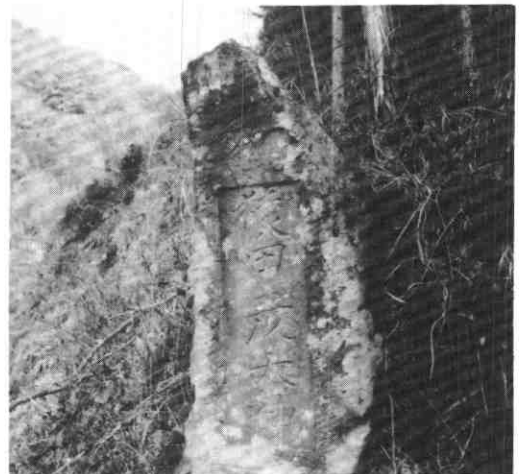
一里塚(萩市大屋)



小西見休み石



道しるべ(長沢台)



道祖神(鎌浦)

### 3、バスが通とおるようになって

わたしたちの村が、今のようにかわってきしたのは、どんなことがきっかけになったのか、みんなで考えてみましょう。

○バスが通るようになったから

○道路がよくなったから

○近くの村がいつしよになったから

これらのよそうについて調べてみましょう。

○バスが通るようになるまで

わたしたちは、バスが通るようになるまでのことを、おじいさんに聞いてみました。おじいさんは、つぎのようなことを話してくれました。

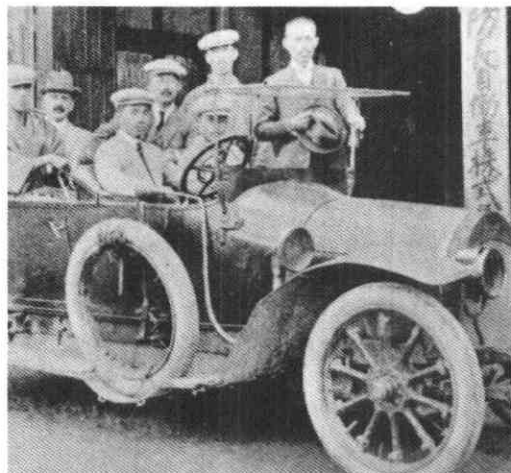
「昔は、今のような大きなよい道がなく、小さくてまがりくねった道だった。バスもなかったので、みんな歩いて行ききしていたんだよ。萩や山口に行くにも、おにぎりをもって、わらじやぞうりをはいて歩いたものさ。米や木材もくざいは、馬や馬車ばしやではこばれていたんだよ。」  
その話を聞いて、むかしは大へんだったなあと思いました。

○バスが通るようになってから

今から六〇年ぐらい前に、萩まで自動車を通るようになり、防長バスも、四五年ぐらい前から通るようになりました。しかし、小さなバスで、お客も少ししかのせることができませんでした。戦時中は、ガソリンがなくて、木炭やまきをもやして走ったものです。道路もせまく、でこぼこ道でした。交通のべんりがよくなると、よその町の人や品物の行ききもさかんになってきました。品物もみじかい時間ではこべるようになり、人々のくらしも少しずつよくなりました。

○道路が広くなる

バスやトラックがどんどん通るようになると、せまくてまがった道路は、あぶなくて時間もかかりません。そのため、山をけずったり、道はばを広くして、



むかしのバス

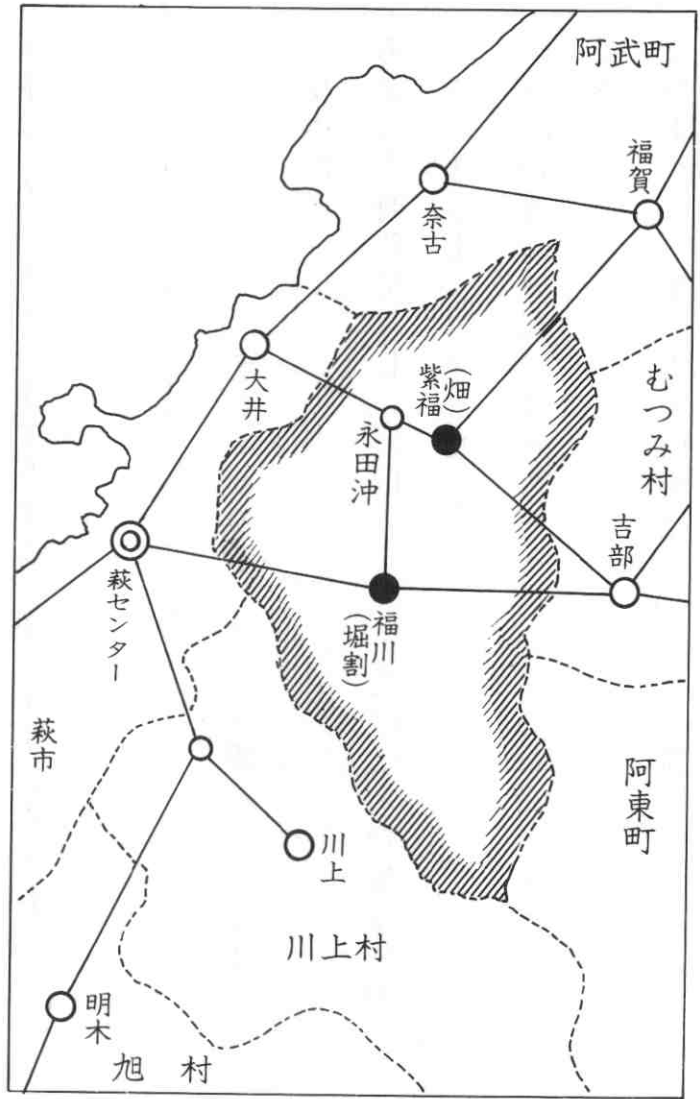


紫福バイパス



福栄村役場前バス停（萩・津和野線）





バス路線図

まがった道路をまっすぐにして、ほそうもしました。大規模林道も開通し、べんりになりました。朝夕のバスは、高校やつとめに行く人を、たくさんはこんでいます。

#### 4、農家に車やきかいがはいるようになって

わたしたちは、農家に車やきかいがはいつて、仕事のようすがどのようにかわったか、調べることにしました。そこで、おじいさんに、わかいころの農家のくらしや、仕事のようすについてたずねました。

○おじいさんのわかいころ

つくられた作物には、米や麦が多く、そのほかにとうきび・大豆・小豆、などもあった。

- ・ しいたけ・くり・野菜やさいなどは、少ししか作られなかった。
- ・ 田や畑は、牛や馬にまぐわを引かせてたがやし、だっこには、千刃せんばこぎやとうみなどが使われていた。
- ・ せいまいは、だいがらや水車を使ってしていた。
- ・ ものをはこぶ時は、牛や人の力にたよっていた。
- ・ 仕事は、子どもから年よりまで、家ぞくみんなが協力きょうりよくしていた。

○車やきかいがはいつて

- ・ きかいを使つかって仕事をするので、早く仕事ができるようになった。

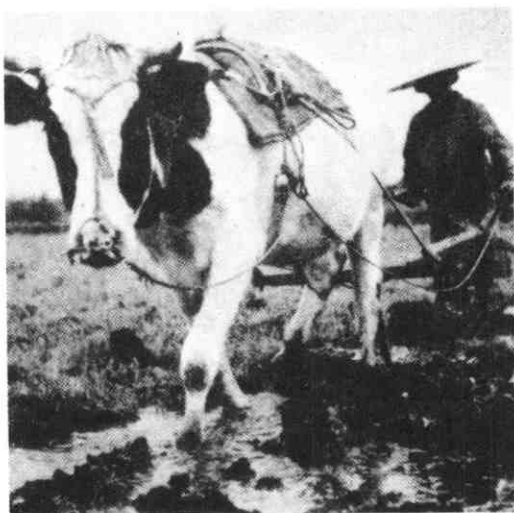
- ・ あまつた時間で、しいたけ・くり・たばこ・野菜などの作物を作るようになった。

- ・ 仕事がひまな時は、よその町へはたらきに行く人がふえてきた。

このように、車やきかいがはいつて、仕事やくらしが大



たんぼでかつやくするトラクター



牛にすきをひかせてたがやす

きくかわってききたことがわかりました。しかし、農家は、ねだんの高い新しいきかいをかうには、お金をかりなければならず、それで苦勞もします。

## 5、村の合がっい

わたしたちの村は、福川村と紫福村に分かれていましたが、昭和三十年四月に二つの村が合がっいして、福栄村ができました。

そのために、村の仕事のむだがなくなり、みんなのくらしが前よりもよくなってきました。

## 6、生活をよくするために

道路がよくなり、農業きかいなどがはいつてきたので、生活がたいへん便利になりました。また、ライスセンター・育苗センター・コミュニティセンター・農業のふきようにない手育成いくせいセンター・老人福祉かくしセンター・村民グラウンド・村民体育館・滝の里キャンプ場・水道しせつ（紫福地区）もでき文化の向上に役立っています。

## 7、くらしのうつりかわり

ふだん着ぎは、自分の家で、わたをつむいで、「はた」でぬのおつていました。洋服ようふくを着きるようになったのは、五〇年くらい前からです。

はきものは、げたやぞうりで、くつやズックがはかれるようになったのは、五〇年くらい

前からです。

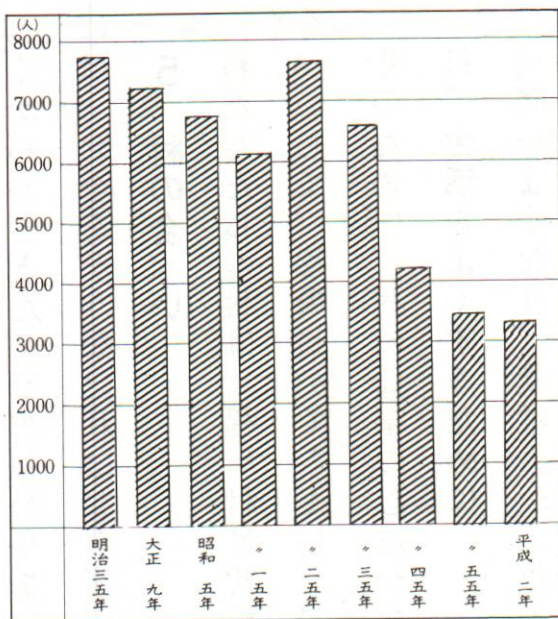
食べ物は、一〇〇年くらい前は、米も少なく、米に麦をませたり、くず米まいを粉こなにして、だんごを作って食べていました。

そのほかつぎのことも調べてみましょう。

○村の人口はどのようにかわったか。また、それはどうしておこったか。

○むかしの人の服そうは、どんなようすだったか。

○食べ物は、どうかわってきたか。



福栄村の人口のへんか

○電どうのなかつたころのくらしは、どんなようすだったか。

○ストーブのなかつたころのくらしはどうだったか。

○乗り物は、どんなにかわってきたか。

○村のおまつりはどんなようすだったか。

一〇〇年前の、家のあかりは、なたね油あぶらやたいまつを使っていたが、その後はランプをともしようになり、大正十年たいしやうごろから、電どうがつくように

なりました。

飲<sup>の</sup>み水は、山水を引くか、井<sup>い</sup>戸<sup>ど</sup>をほってつるべくみあげていましたが、今はほとんどの家がポンプや上水道を使っています。

近ごろは、かやぶきの家がほとんどなくなり、家の形もかわって、明るい部<sup>へ</sup>屋<sup>や</sup>がふえまし  
た。

### 8、福栄村のうつりかわり

村やくらしのうつりかわりを、福栄村史という本で調べてみると、つぎの表のようなことが書いてあります。

時代	年	村やくらしのうつりかわり
永 <sup>えい</sup> 仁 <sup>にん</sup>	四年	紫 <sup>し</sup> 福 <sup>ぶき</sup> 郷 <sup>ごう</sup> という字がふるい書きものに出ている。(一二九六)
天 <sup>てん</sup> 平 <sup>びやう</sup>	元年	福 <sup>ふく</sup> 井 <sup>い</sup> 郷 <sup>ごう</sup> という字がふるい書きものに出ている。(一三四六)
寛 <sup>かん</sup> 文 <sup>ぶん</sup>	八年	紫 <sup>むらさき</sup> 福 <sup>ふく</sup> の文 <sup>もん</sup> 殊 <sup>じゆ</sup> 堂 <sup>どう</sup> ができた。(一六六八)
元 <sup>げん</sup> 文 <sup>ぶん</sup>	三年	福 <sup>ふく</sup> 井 <sup>い</sup> 上 <sup>じやう</sup> 村 <sup>むら</sup> ができた。(一七三八)
	五年	福 <sup>ふく</sup> 井 <sup>い</sup> 下 <sup>げ</sup> 村 <sup>むら</sup> ・黒 <sup>くろ</sup> 川 <sup>がわ</sup> 村 <sup>むら</sup> ・紫 <sup>むらさき</sup> 福 <sup>ふく</sup> 村 <sup>むら</sup> ができた。(一七四〇)

五年 紫福小学校ができた。(一八七二)

六年 福井東・福井西・黒川の小学校ができた。(一八七三)

七年 福井郵便局ができた。(一八七四)

一三年 紫福郵便局ができた。(一八八〇)

一七年 赤瓦屋根の家をつくるようになった。(一八八四)

二〇年 おまわりさんが村にちゅうざいした。(一八八七)

二一年 萩から島根県にぬける道路工事がはじまった。(一八八八)

二二年 福井上村・福井下村・黒川村を合わせて福川村となった。(一八八九)

二五年 村ではじめて自転車にのる人がいた。新聞を見る人もいた。(一八九二)

二八年 紫福村の役場が市から畑へうつった。(一八九五)

三四年 紫福農会ができた。二年後に福川農会もできた。(一九〇一)

大正

四年 紫福と大井の間に道路ができた。(一九一五年)

五年 大井川発電所ができ、電灯がつけられるようになった。(一九一六)

七年 萩・三谷間の乗合バスが福川村を通るようになった。(一九一八)

一二年 萩・大井・紫福畑の間を乗合バスが通るようになった。(一九二三)

大正	昭和
一二年 長門峡発電所ができた。 <small>ちやうもんきやう</small>	元年 福井郵便局で電信電話の仕事をはじめた。(一九二六)
地下たび・ゴムぞうり・ゴムぐつをはくようになった。	二年 小学校の児童が学生服を着るようになった。(一九二七)
一五年 福川・紫福に散宿所ができた。(一九二六)	村ではじめてラジオが聞けた。
新聞の取次店ができ、だんだん新聞を見る人が多くなった。	電灯がほとんど全村につくようになった。
一六年 福川の県道が改しゆうされた。(一九四一)	三年 女せいが、かんたん服を着はじめた。(一九二八)
一八年 福川森林組合ができた。(一九四三)	四年 村ではじめて自家用自動車にのる人がいた。(一九二九)
二〇年 紫福に診療所ができた。(一九四五)	六年 紫福郵便局で電信電話の仕事をはじめた。(一九三一)
	一〇年 紫福森林組合ができた。(一九三五)

- 二一年 婦人会がつくられ、活動をはじめた。(一九四六)
- 二二年 中学校ができた。(一九四七)
- 二三年 農業協同組合ができた。奈古高等学校紫福分校ができた。(一九四八)
- 二五年 台風により大きな被害をうけ、半田地区では特にひどかった。(一九五〇)
- 三〇年 福川村と紫福村を合わせて福栄村となった。(一九五五)
- 三三年 福川中学校の屋内運動場ができた。(一九五八)
- 三四年 福川小学校戦後最大の学校規模となった。(四九九人一学級)(一九五九)
- 三六年 萩市小畑から出火して黒川・吉田方面までひろがった。(一九六一)
- 三七年 福栄村商工会ができた。(一九六二)
- 三八年 大雪がふって一メートル以上つもった。(一九六三)
- 三九年 消防団に消防自動車がそなえられた。
- 四〇年 紫福小学校の鉄筋コンクリート校舎ができた。(一九六四)
- 国民健康保険で、医療費の七割給付がはじまった。
- 福川農協が新築された。(一九六五)



昭和

- 四二年 保育園がはじまった。(一九六七)
- 四三年 地籍調査がはじまった。(一九六八)
- 四四年 羽賀台で農業改善事業がはじまった。(一九六九)
- 奈古高等学校紫福分校がなくなった。
- 森林組合が合がっぺいして福栄村森林組合となった。
- 四五年 集しゅうだん団電話と有線放送がはじまった。(一九七〇)
- ライスセンターが福川にできた。
- 四七年 阿武川ダムの工事がはじまった。(一九七二)
- 福栄村コミュニティセンターができた。
- 四九年 平蔵台の農地開発事業ができあがった。(一九七四)
- 五〇年 福川診療所が新築移転した。(一九七五)
- 五一年 農村基盤総合整備パイロット事業がはじまった。(一九七六)
- 五二年 福栄村森林組合が新築された。ライスセンターが紫福にできた。(一九七七)
- 五三年 無線放送に改良された。(一九七八)
- 五四年 農業にない手育成センターが紫福にできた。(一九七九)

五五年	紫福バイパスができた。(一九八〇)
	老人福祉センターが紫福にできた。
五六年	福川小学校が改築移転した。村民グラウンドができた。(一九八一)
五七年	村民体育館ができた。(一九八二)
	紫福診療所が新築移転した。
五八年	紫福小学校屋内運動場ができた。(一九八三)
	山のロダムができた。
五九年	県森林組合共販所が福井にできた。(一九八四)
六三年	滝の里キャンプ場ができた。(一九八八)
平成 元年	紫福園ができた。(一九八九)
	農業基盤整備パイロット事業が終わった。(一九八九)
二年	紫福保育園が改築された。(一九九〇)

### 9、農業のうつりかわり

福栄村の農業のようすは、つぎのようにかわってきました。

## ○田畑をふやす時代

むかしの人は、米・麦・ぎつこく・豆<sup>まめ</sup>るいを作ることにいつしうけんめいでした。

そのために、平<sup>たいら</sup>な土地だけでなく、谷の間や、山のしやめんのかなり高いところまで、こ  
う地をふやしていきました。今でも、たな田がたくさんあるのを見てもよくわかります。

福川地区に多い台地には、水がなく、羽賀台・高坂台・鎌浦台・長沢台・平蔵台などは、  
ひろい畑でした。

このように、わずかな土地でも、田や畑になるところは、田畑にして、収<sup>しゅう</sup>かくをふやそう  
としました。

山では、木を切つて炭<sup>すす</sup>を焼<sup>や</sup>き、草を刈<sup>か</sup>つて田畑の肥料<sup>ひりょう</sup>にしていきました。半田地区のような  
山間の農家では、こうぞ・みつまたを植え、冬の間紙<sup>かみ</sup>すきもしました。

また、ほとんどの農家で、田畑をたがやしたり、荷物<sup>にもつ</sup>をはこぶために、赤毛の牛を飼<sup>か</sup>つて  
いました。牛と人の力での仕事は、苦<sup>くろ</sup>勞<sup>らう</sup>も多く、暮<sup>く</sup>らしもらくではなかつたようです。

## ○農業を改良する時代

今から一〇〇年くらい前から、いせきをよくしたり、水路を作ったり、田の排<sup>はい</sup>水<sup>すい</sup>をしたり  
して、田をよくしていきました。排<sup>はい</sup>水<sup>すい</sup>をした田は、かわきがよくて、米を作ったあとに、麦

も作れるようになりました。

また、作り方の勉強べんきょうもすすんで、だんだん収かくが多くになりました。それでも暮くらしはあまりらくではなかったので、畑くわに桑かいこを植かえて蚕かいこを飼かうようになったのもこのころです。

山にすぎ・ひのきなどを植しよくりん林しし、紫福地区で白菜しやくりんが作られるようになったのが、九〇年くらい前のことです。

八〇年くらい前から、農具のうぐの改かいりよう良りようもすすみ、足ふみのいねこぎ機かいが使まわれるようになり、仕事しごともはかどるようになりました。

動力機どうりよくかいで白うすひきをするようになったのは、六〇年くらい前からです。村の農家のうかをまわって、白うすひきひきをすることを冬の間の仕事しごとにしていた人もいました。

蚕かいこを飼かうことも研究けんきゆうされて、さかんになったのもこのころです。また、黒毛くろけの無角牛むかくぎゆうが飼かわれるようになりました。無角牛むかくぎゆうは、仕事しごとに使うばかりでなく、よい肉にくもとれるので、子牛こぎゆうを産うませてふやすこともしました。そして、今では、無角牛むかくぎゆうが、阿武郡あぶや萩市はぎの特産とくさんにままなりました。

たばこが作られるようになったのが、昭和十三年頃しやわじゅうさんねんころからです。

田いりをよくし、農具のうぐもよくなり、仕事しごともはかどるようになりました。米こめ作りだけでなく、い

ろいろな仕事をとりいれていって、暮らしもだんだんよくなっていきました。

### ○せんそうの時代

昭和十六年になると、せんそうがひどくなってきました。農家からも多くの若い人<sup>わか</sup>がせんそうにいったので、人手がたらなくなりました。日本中の食<sup>た</sup>べ物も少なくなって、困るようになり、農家では、畑での桑<sup>くわ</sup>作りやたばこづくりをやめて、さつまいもやかぼちやや豆を作りました。学校の運動<sup>うんどう</sup>場も、いも畑にかわったくらいです。

### ○機かいで農業をする時代

日本がせんそうから立ちなおって、自動車がふえ、農業機かいもつきつきによいものができるとなりました。農家の仕事も大きくかわってきました。人手があまるようになつて兼<sup>けん</sup>業農家がふえました。米作りもじょうずになつて、米があまるような時代になりました。

これからも、農家の人たちは、新しい農業を、きり開いていくことでしよう。

おじいさんやおばあさんに、むかしの農業のようすをきいてみましょう。

むかしの農具も、調べてみましょう。

今の農業には、どんな問題があるか、家の人に聞いてみましょう。



## 六、郷土の開發

勉強のめあて

わたしたちは、これまでの学習で、発展してきた福栄村のようすを知ることができました。

しかし、今のよう<sup>べんり</sup>に便利でゆたかな生活は、むかしから続いてきたものではありません。

今のすばらしい村を見るとき、そのかげには、むかしの人が血みどろ<sup>ち</sup>になって働いてきた苦勞<sup>ろう</sup>のあとを、わすれてはなりません。

郷土をひらくために、むかしの人が、どんなに苦心してきたのか、堀越の水路<sup>すいろ</sup>隧道<sup>ずいどう</sup>を引いたようすを、くわしく調べてみましょう。

また、わたしたちの村には、まだまだたくさん、むかしの人の開發したもののや、今も開發がすすんでいる例<sup>れい</sup>があります。そのようすや、人々のねがいなどを調

べてみることもおもしろいでしょう。

### ○水路隧道のある堀越

堀越は、わたしたちの村のいちばん東のはしにあつて、山をへだてて阿武町福賀の飯谷いいたにというぶらくととなりあつています。

東と北と南の三方を山でかこまれ、西に向かつて扇おおぎのように水田がひらけています。

ここには、「堀越水路隧道」といわれる、田畑に水をひくためのトンネルがあります。これは、今から四〇数年前、そのころの紫福村村長の岩武いわたけ丞じやう祐すけさんと、堀越の人々の総力そうりよくによつて完成かんせいしたものです。



堀越水路隧道

堀越は、戸数二〇戸あまり、農業と

林業のさかんな地区です。農業は米づくりと野菜づくりがさかんです。この林業は、山口県内でも有名で、堀越山いったい一帯の森林は、山口県の模範林もはんりんとなつていきます。このように堀越がゆたかなぶらくとなつたかげには、むかしから多くの人々の努力どりよくがあつたからです。

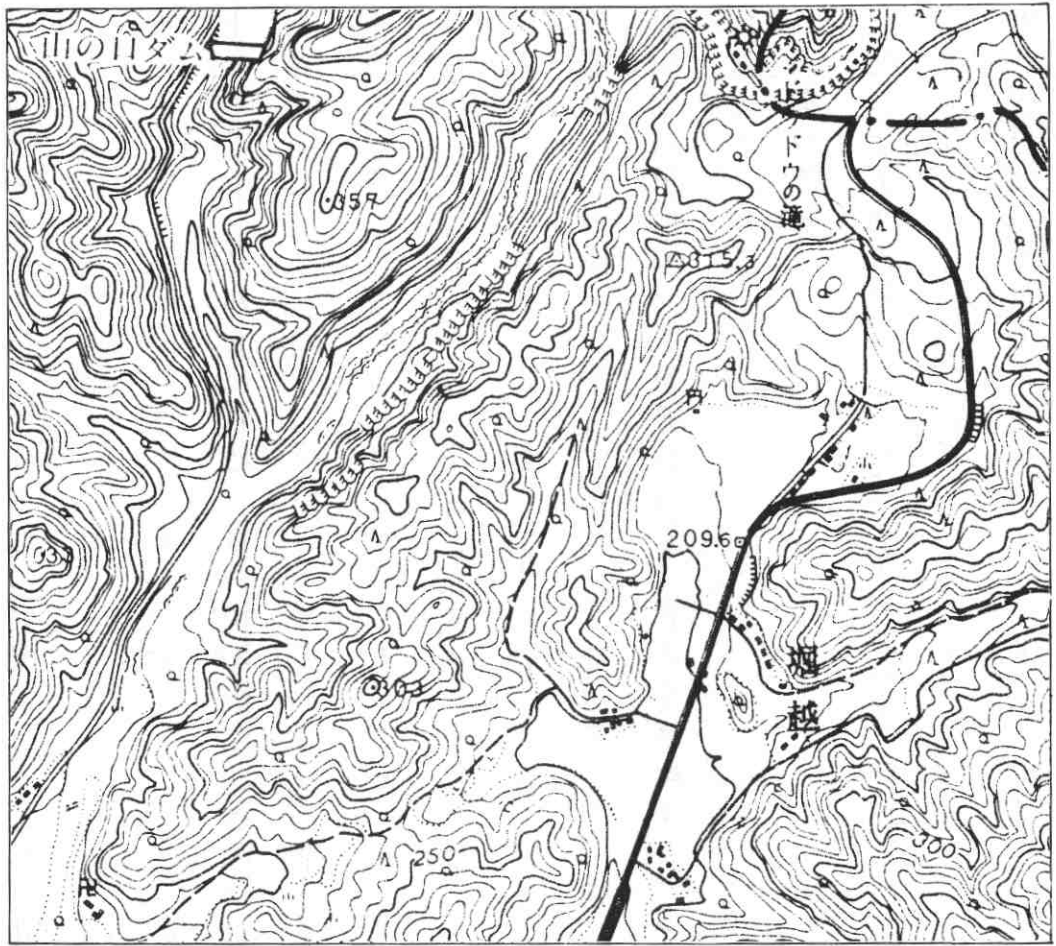
○人々のねがい

堀越は、小さなわき水の出る池と、小さな川しかありません。人々は、このわずかな水をたよりに水田を作つてきました。ところが、ひでりが続くとわき水も少なくなり、小川の水もかれ



堀越部落の全景





堀越付近の地図

て、田にひく水もなくなり、雨の降るのを待つか稲いねのかれるのを待つしか、手のほどこしようなないありさまでした。しかし、田畑を守ってきた人々は「田に水をひくよい方法はないものか」といつも考えて苦心していました。

あるとき、ひとりのおひやくしようが、ひと山こした大井川のほとりの山林さんりんから、たくさんのわき水が出ているのを発見しました。

「この山の下にトンネルをほつて、この水を里の方にひくことができたら―。」と、考えました。里にもどつて、みんなとそうだし

て、村役場をたずね、村長さんをお願いしました。岩武村長は、村の農業用水のことに大へん力を入れられた方でしたから、さっそく県に願いでて、測量してもらいました。その結果、水の取り入れ口から出口までの高さもちょうどよく、堀越山の下、二八五間（五一三メートル）のトンネルをほれば、大井川の水をひき入れられることがはつきりしました。

堀越の人々は、大よろこびで、さっそくこの工事をすすめるために組合をつくり、岩武村長を会長に推し、力を合わせてやりぬくことをちかいました。

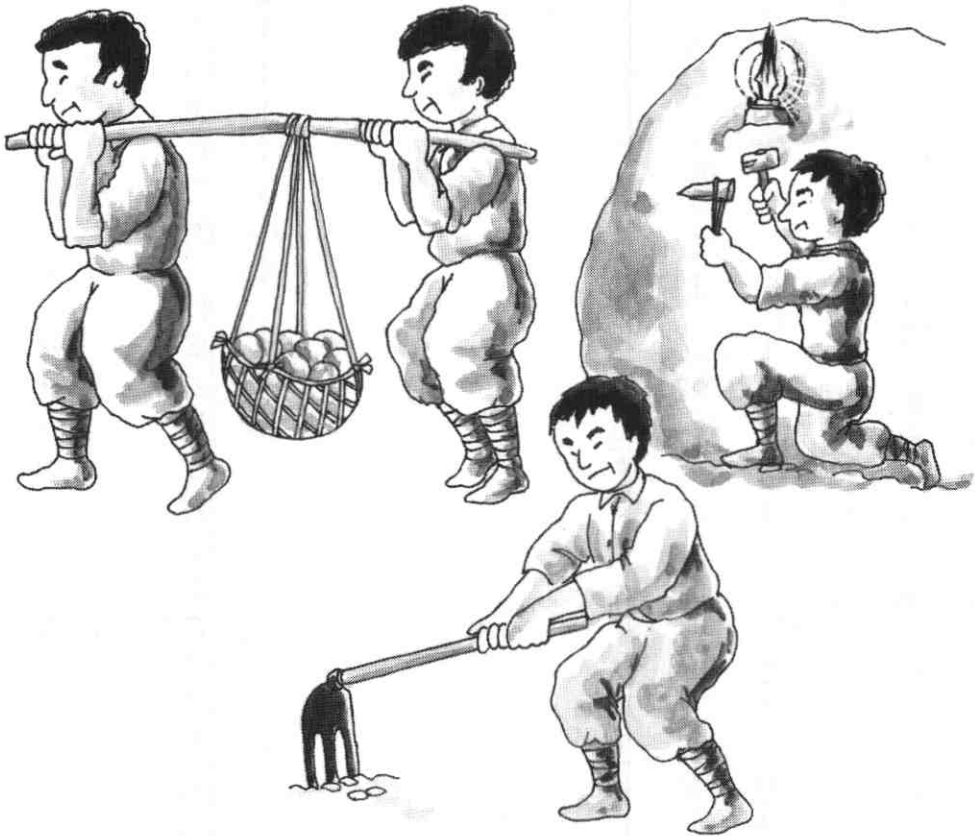
組合の代表の人々は、県庁に出向き、工事の許可をもとめました。しかし、県では、容易にみとめてくれませんでした。代表の人々は、何度も県庁に出向いてはくり返しくり返し事情を話し、計画を説明し、お願いを続けました。県庁の係りの人も、代表の人々のあまりの熱心さに負けて、工事を許可し、費用を補助することをみとめました。昭和十五年一月のことでした。

### ○工事の苦勞

昭和十五年五月、いよいよ工事が開始されました。工事は農家の人とせんもんの人と協力してやりました。しかし、トンネルを堀るのは大へんな苦勞でした。土のよい所もあれば、大きな岩ばんの所もありました。一メートルほるのに何日も何日もかかるという所や、ダイ

ナマイトを使つてもびくともしないといふ所もありました。今のような機械のないころのことですから、「のみ」と「かなづち」、「つるはし」などが掘る道具のおもなもので、ほられた土や石は、「もっこ」や「トロッコ」ではこびだされました。

そのうち、昭和十六年十二月、太平洋戦争が始まりました。戦争のため、物価はどんどん上がり、工費はよていの二倍三倍と上がっていききました。物の不足はひどいものでした。灯りに使うアセチレンガスも、のみ・かなづちも、火やくも、食べ物も……。自由に買える物は何ひとつありません。配



トンネル工事のようす

給制度きゅうせいどになったのです。人手も不足してきました。働はたらきざかりの男の人は、戦争に行かなくてはなりません。工事の世話をしていたおもだった人も次々と戦争へ出ていきました。それでも人々は、ひるみませんでした。

初はじめは、取り入れ口の方から仕事をすすめていきましたが、仕事の見とおしがたつてからは、出口の方からもほりすすめ、昼も夜もなく仕事は続けられました。

こうして、昭和十九年九月、ついにトンネルのかん通をみたのです。最初さいしよ心ばいしていたくいちがいも、わずか二尺しゃく（六〇センチメートル）たらずで、見ごとにつなぐことができたのです。

○トンネルができてから

四年四カ月の年月をかけ、たいへんな苦勞くろうをして完成かんせいしたトンネルに水を通す日がきました。大井川の水はトンネルを通りぬけ、いきおいよく流れでました。トンネルの出口で見守まもっていた里の人々はおどりがって喜よろこびました。だれかが、思わず「命の水じゃ」とさげびました。「命水」「命水」という声がみんなの中に、わのようにひろがっていきました。

このトンネルのおかげで、今まで水に困こまっていた田んぼには、なみなみと水がそそがれるようになりました。まわりのあれ地や畑もかいこんされて、新しく田んぼに生まれかわりま

した。

○トンネル工事の記念碑

いま、堀越のバスの停留所の近くにはこの工事を記念する石碑がたてられています。

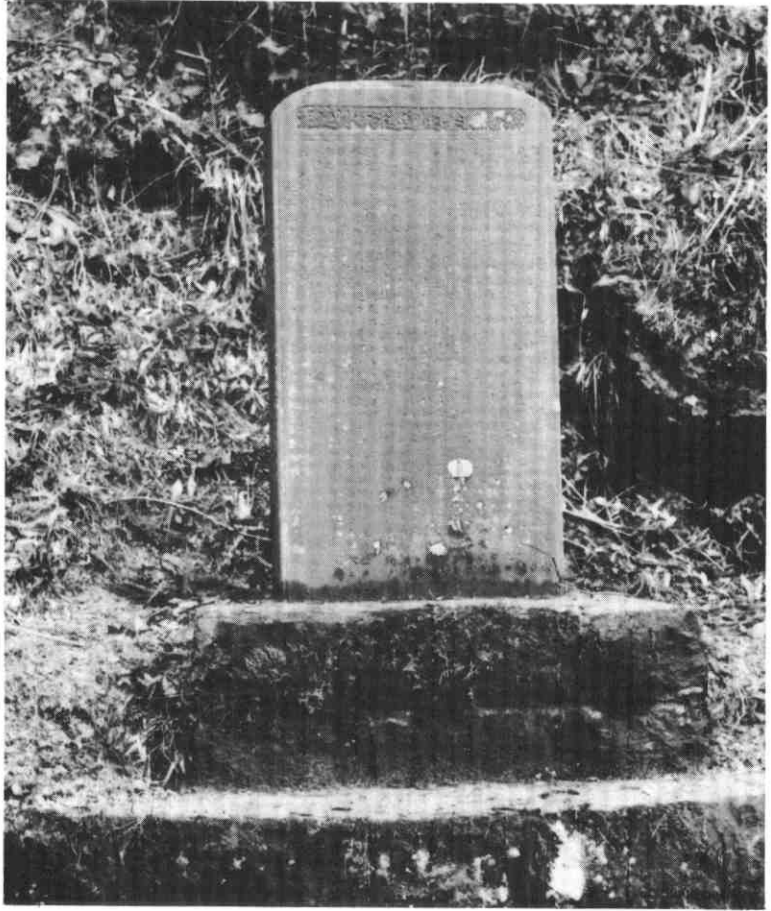
記念碑には、工事の様子や苦勞のあとといっしょに

「いわがねも 山をも貫きし真心を

永久につたえん 堀越の里」 酔雨

という歌がきざまれています。

この記念碑は、いまでも堀越の里を見守っています。



組合設立	昭和十五年十月二十八日
工事竣工	昭和二十年四月三日
隧道延長	二八五間
竣工費	七万三千元
堀越総戸数	三二戸
関係総面積	二三町歩
組合長	岩武 丞祐
副組合長	原 融

トンネル工事記念碑

あとがき

この本は、三・四年生の社会科の学習で、わたしたちの住んでいる福栄村のようすについて、勉強するのに役立ててもらうために、つくったものです。

したがって、なるべくしたしみやすいものにするため、漢字にふりがなをつけたり、写真や図表を多くとり入れたりしました。

みなさんは、この本で、福栄村の古い時代のことや、今のようす、わたしたちの祖先がどのように努力してきたか、などを勉強してください。そして、これからの福栄村がどのよう  
にのびてゆくのかを知り、また、そのためにつくすことのできるおとなになるように、努力  
してください。

編集にあたって、村の広報係をはじめ、たくさんのかたがたのご協力をいただいたことに  
たいし、あつくお礼申しあげます。



わたしたちのむら ふくえ

昭和五十八年三月三十一日 印刷

昭和五十八年四月一日 発行

平成二年四月一日 改訂

発行者 福栄村教育委員会

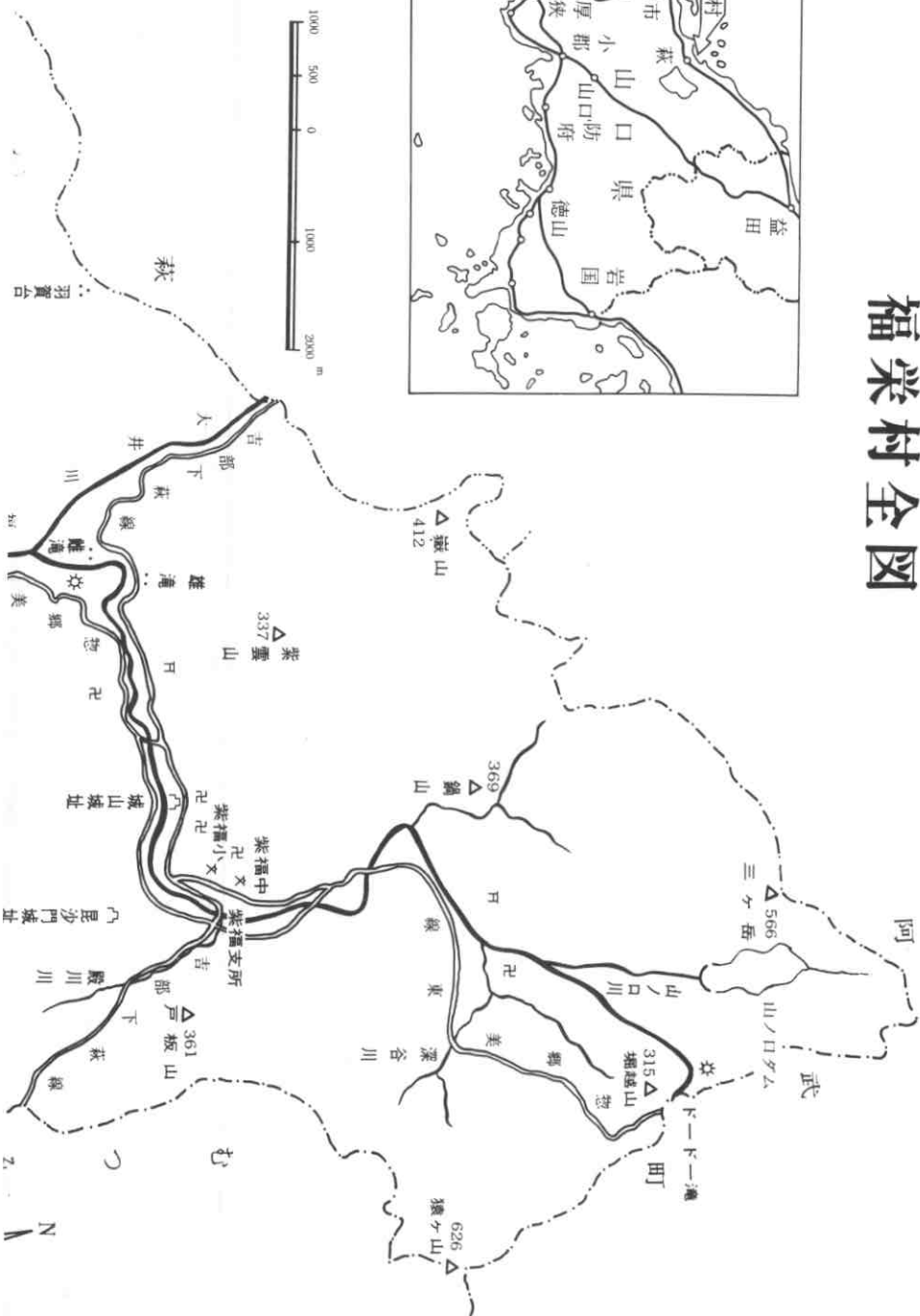
編集者 福栄村社会科副読本  
編集委員会

防府市仁井令一五〇五  
大村印刷株式会社



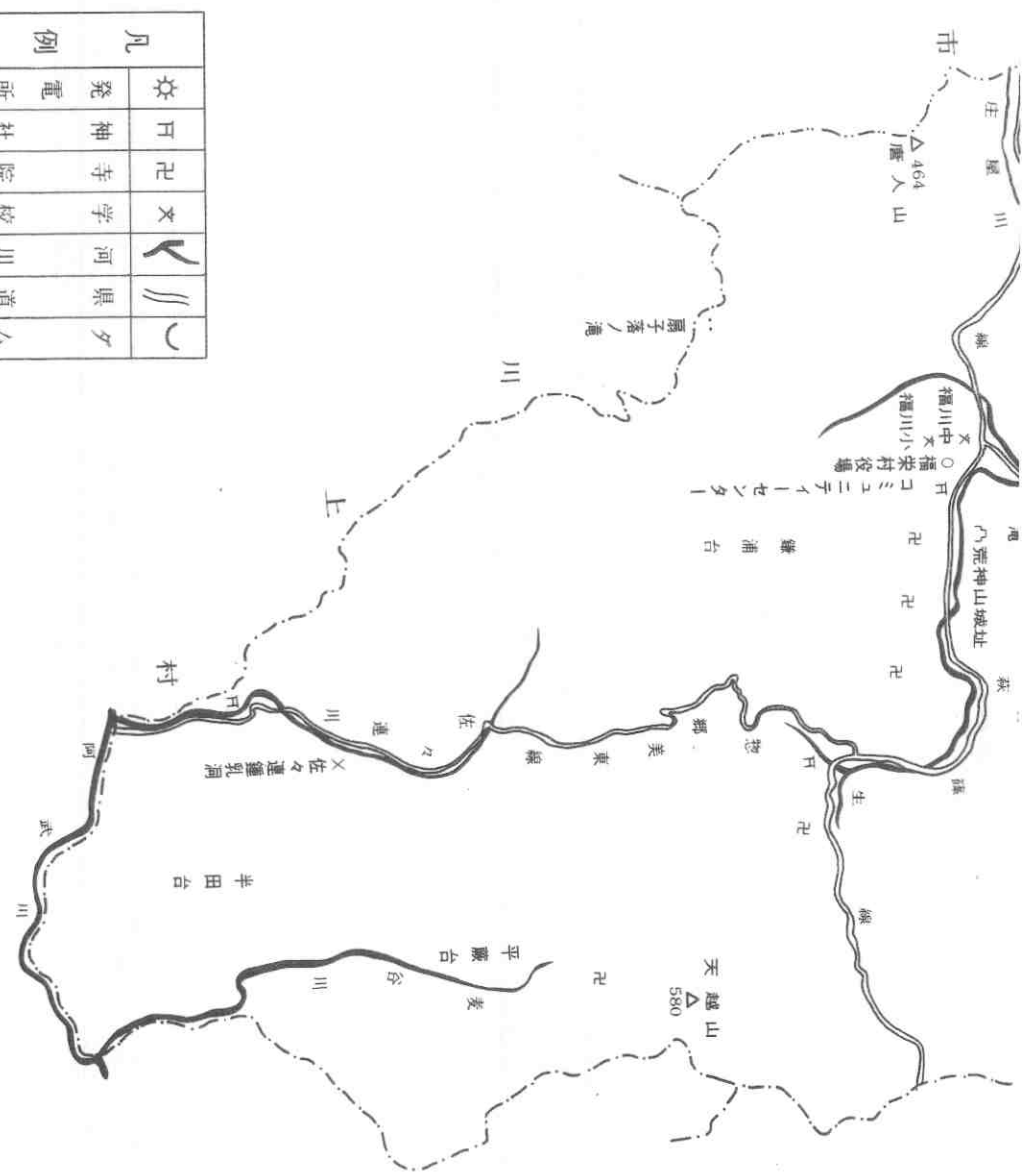


# 福栄村全図





阿 東 町



## 村 章



この村章は「フク」の字を組み  
合せて図案化したもので、円は団  
結と融和を、円内の白い部分は、  
開発・発展を象徴したものです。  
(昭和41年4月5日制定)

小学校	年
-----	---